【理事会の開催状況】

(第1回)令和2年4月23日（出席理事11名）

提案議案	議案第1号	・人員配置変更に伴う各運営規程の一部改正
	議案第2号	・職員就業規則・準職員就業規則・非常勤職員就業規則一部改正
	議案第3号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設費借入金に係る金融機関の決定
	議案第4号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設工事に係る建設業者決定
	議案第5号	・第47回評議員会の開催日程

(第2回)令和2年5月26日（出席理事11名）

提案議案	議案第6号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会事業活動報告
	議案第7号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会社会福祉事業区分資金収支決算承認
	議案第8号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会収益事業区分資金収支決算承認
	議案第9号	・理事交替に伴う後任理事候補者の選任
	議案第10号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に伴うわかば作業所(あさごふれ愛の郷あさひ)指定管理基本協定解除を申し出る事
	議案第11号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に伴う追加工事
	議案第12号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に係る建設費借入

(第3回)令和2年6月23日（出席理事12名）

提案議案	議案第13号	・令和2年度共同募金「地域目標額」設定に係る事業充当計画

(第4回)令和2年7月21日（出席理事11名）

提案議案	議案第14号	・職員就業規則・準職員就業規則・非常勤就業規則の一部改正
	議案第15号	・経理規程の一部改正
	議案第16号	・小口現金取扱要綱の一部改正
	議案第17号	・小規模多機能施設おくらべ並びに小規模多機能施設宅老所えんや定員の変更

(第5回)令和2年8月25日（出席理事11名）

提案議案	議案第18号	・小規模多機能施設定員変更に伴う運営規程の一部改正
	議案第19号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に係る建設費借入

(第6回)令和2年9月24日（出席理事11名）

提案議案	議案第20号	・令和2年度共同募金運動の推進
	議案第21号	・障がい者(児)複合型多機能施設に係る運営規程の改正 ○障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B型)事業運営規程
	議案第22号	・障がい者(児)複合型多機能施設に係る運営規程の制定 ○あさごふれ愛の郷あおぞら共同生活援助事業運営規程 ○あさごふれ愛の郷あおぞら短期入所事業運営規程

	議案第 23 号	・第 48 回評議員会の開催日程

(第 7 回)令和 2 年 10 月 27 日（出席理事 11 名）

提案議案	議案第 24 号	・一般職 2 種給与規程の取り扱い
	議案第 25 号	・障がい者(児)複合型多機能施設に伴う追加工事並びに契約期間等の変更契約の締結

(第 8 回)令和 2 年 11 月 19 日（出席理 11 名）

提案議案	専決第 1 号	・障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B 型)事業運営規程の一部改正
	議案第 26 号	・障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B 型)事業運営規程の一部改正
	議案第 27 号	・社会福祉事業区分及び収益事業区分会計第一次補正予算

(第 9 回)令和 3 年 1 月 20 日（出席理事 12 名）

提案議案	専決第 2 号	・障がい者(児)複合型多機能施設に係る駐車場舗装整備工事
	議案第 28 号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に係る建設費借入
	議案第 29 号	・デイサービスセンターかしのき園県実地指導指摘事項是正・改善
	議案第 30 号	・あさごふれ愛の郷あおぞら県実地指導指摘事項是正・改善
	議案第 31 号	・文書管理規程の一部改正
	議案第 32 号	・第 49 回評議員会の開催日程

(第 10 回)令和 3 年 2 月 25 日（出席理事 12 名）

提案議案	議案第 33 号	・職員雇用体系改正に伴う職員呼称変更に関する関連規定の一部改正
	議案第 34 号	・総合職就業規則・一般職1種就業規則・一般職2種就業規則の一部改正

(第 11 回)令和 2 年 3 月 12 日（出席理事 11 名）

提案提案	議案第 35 号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に伴う定款変更
	議案第 36 号	・令和 3 年度朝来市社会福祉協議会活動基本方針と活動計画
	議案第 37 号	・令和 3 年度朝来市社会福祉協議会社会福祉事業区分資金収支予算
	議案第 38 号	・令和 3 年度朝来市社会福祉協議会収益事業区分資金収支予算
	議案第 39 号	・次期社協委員の選任
	議案第 40 号	・評議員選任・解任委員の選任

【理事名簿】　　令和 3 年 3 月 31 日現在(敬称略)

選出区分	氏名	選出区分	氏名
区長会	藤本辰也	社協委員	稲津繁美
民生児童委員協議会	安積茂	社協委員	朝岡俊則
学識経験者	伊藤宣廣	社協委員	村上政江

学識経験者	福富宏三	社協委員	垣尾博子
社協委員	日下部誠	社協委員	中島隆幸
社協委員	柴田一明	社協委員	椿野幸子

【監事名簿】　　令和3年3月31日現在(敬称略)

選出区分	氏名	選出区分	氏名
学識経験者	石田誠	学識経験者	楠成樹

【評議員会の開催状況】

(第47回)令和2年6月11日（出席評議員14名）

提案議案	議案第1号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会事業活動報告承認
	議案第2号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会社会福祉事業区分資金収支決算承認
	議案第3号	・令和元年度朝来市社会福祉協議会収益事業区分資金収支決算承認
	議案第4号	・理事交替に伴う後任理事選任

(第48回)令和2年11月27日（出席評議員13名）

提案議案	議案第5号	・令和2年度朝来市社会福祉協議会社会福祉事業区分第一次資金収支補正予算承認
	議案第6号	・令和2年度朝来市社会福祉協議会収益事業区分第一次資金収支補正予算承認
	議案第7号	・次期理事及び監事選任に向けた選考委員選任

(第49回)令和3年3月19日(出席評議員14名)

提案議案	議案第8号	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に伴う定款変更
	議案第9号	・令和3年度朝来市社会福祉協議会活動基本方針と活動計画
	議案第10号	・令和3年度朝来市社会福祉協議会社会福祉事業区分資金収支予算
	議案第11号	・令和3年度朝来市社会福祉協議会収益事業区分資金収支予算

【評議員名簿】　　令和3年3月31日現在(敬称略)

選出区分	氏名	選出区分	氏名
ボランティア代表	吉井忠大	社協委員	雑賀睦子
ボランティア代表	松田千草	社協委員	中島正
ボランティア代表	清瀬妙兮	社協委員	清田牧男
各種団体	笠垣茂	社協委員	足立和子
福祉施設	中島浩之	社協委員	湯口守

社協委員	中島美千子	社協委員	枚田信章
社協委員	白瀧迪子	社協委員	山本利近
社協委員	中島秀明	社協委員	尾崎義治
社協委員	藤本三郎		

【監事監査】

・令和元年度決算監査実施・・・令和2年5月13日

≪監査結果≫

監査項目	監査結果及び指示事項
理事会	理事は区長会長、民生児童委員会長交代による変更を除いて全員が留任、定款第33条に基づき企画財政部会、事業部会を設置、障がい者(児)複合型多機能施設建設に向けて運営方針、財政調整等の検討を行っており実行力が伴った陣容となっている。また理事の職務執行に関するけん制機能は適切に行えている。
評議員会	地区社協より選ばれた社協委員が、定数の3分の2を占めており役割意識は高く、年間3回の定例評議員会の出席率も高く必要に応じて質問、意見発表等も適切に行えている。
人事管理	キャリアパス制度の充実と職員の意識、機能向上に向け各層別研修体系の確立に取り組んでおり特に、新入職員研修にチューター制度を導入しコミュニケーションアップとチューターとなる先輩職員のステップアップにもつながっている。また施設長会議やセクション会議等での意見や行動について前向きの姿勢が「職員の気づき」報告の中で強く感じられる。
運営管理	最近の労働環境は超売り手市場と言われ、介護業界は採用面でも離職についても大変厳しい状況下にある、加えて法令で定められた配置定員の問題もあり外国人人材の活用や介護ロボット等介護方法および事業選択の検討が必要な時期に来ていると思われる。
業務管理	本来目的である地域福祉を確実かつ適正におこなうために必要な財源として介護事業、就労支援事業、障害福祉サービス事業収入による収益確保は避けて通れず、厳しい環境下ではあるが更なる努力が期待される。
その他	複合型多機能施設建設は、一大プロジェクトであり、一部不足金の借り入れも計画されており、固定費の上昇は避けて通れない。事業部会で検討されているが旧施設の有効活用に加え,利用者確保に向けたアイデア募集、情報収集等周知を集めた取り組みが必要。

・監事は全理事会に出席し、運営状況等監査

【外部監査】

松田公認会計士事務所と顧問契約締結

契約内容　(税務顧問・会計顧問・記帳代行・決算書の作成・その他顧問
毎月/決算監査)

【実地指導監査】

○指定介護保険サービス事業者　(実地指導)

実施日　令和2年10月20日

≪デイサービスセンターかしのき園≫

指摘内容	改善状況
1. 人員に関する基準 ※生活相談員の不在日がないように配置すること ※機能訓練指導員配置を辞令に記載すること	 ※勤務作成システムを導入し、人員基準を設定し生活相談員が配置されるようにします。 ※辞令に機能訓練指導員を明記します

○指定障害福祉サービス事業者　(実地指導)

実施日　令和2年10月21日

≪あさごふれ愛の郷あおぞら(生活介護・就労継続支援B)≫

指摘内容	改善状況
1. 人員に関する基準 ※直接処遇職員の配置が人員基準を満たしているか書類上確認できなかった	 ※勤務作成システムを導入し、人員基準を設定し直接処遇職員が必ず配置されるようにします
※平成31年4月分からの実績分及び翌月の予定分を提出すること	※平成31年4月から令和2年9月までの実績と令和2年10月の予定を提出します
2. 運営に関する基準 ※文書の保管期間でケース記録の保存期間は3年と規程されているが、運営上5年保管しなければならないこと	 ※文書管理規程の該当する記録の保管期間3年を5年に改正します 令和3年1月理事会提案済
3. 工賃の支払等(就労B) ※昨年度の平均工賃実績を利用者に通知すること	 ※令和元年度の平均工賃等の実績を各利用者へ文章で通知するとともに、毎年4月には前年度の平均工賃を各利用者へ通知します
※令和元年度の就労支援会計の	※経費の内、就労支援事業に関わる職員の給与とし

事業収入から必要経費を除いた額を超える金額が利用者の工賃として支払われていた。工賃の支払いに要する額を自立支援給付を持って充てることは不適切であり、令和元年度就労支援会計をどのように処理したか。	て支払われたものでありました。 就労支援事業の収支については、利用者工賃やその材料を優先的に計上し、利用者工賃については、事業収入の中で支出を基本としています。今後監査報告時には、経費などの内容についても詳細に説明するようにします
※施設外就労（就労Ｂ） 運営規程の中に施設外就労に関する規則が整備されていないので整備すること	※運営規程中の「就労外支援」の表記を「施設外就労」に変更し、令和２年10月30日に提出済
3. 介護給付費等に関する基準 ※送迎加算 送迎加算（Ⅰ）の要件を満たしていることを確認できるように１回あたりの送迎の平均利用者数及び１週間当たりの送迎の実施回数を算出した書類の作成と整備すること。また平成31年４月分から提出月までの実績分を提出すること	※利用者管理システムと連動する福祉送迎業務支援システムを導入し、送迎ルートならびに送迎実績をデーター管理できるようにします ※平成31年４月から令和２年９月までの実績を提出します 令和３年２月４日に提出済

【指定管理】

朝来市公の施設に係る指定管理者の指定を受けた

施　設　名
あさごふれ愛の郷 YOU・愛センター
朝来老人福祉保健センター
認知症対応型通所介護宅老所ふらっと

【委員会活動】

委　員　会　名	開　催　日	回数
共同募金推進委員会	8/11	１回
小規模多機能施設えんや運営委員会	10/28	１回
小規模多機能施設おくらべ運営委員会	10/27	１回
小規模多機能施設ひなたぼっこ運営委員会	10/16	１回

小規模多機能施設ひばり運営委員会	10/22	1回
複合型多機能施設建設入札立会	4/16	1回

※小規模多機能施設について、4施設とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月、6月、8月、12月、2月の運営推進会議は書面により実施した。

【基金の運用・管理】　　（単位：円）

基金名	金額	基金名	金額
財政調整積立預金	18,627,841	福祉基金積立預金	12,022,622
備品購入積立預金	10,094,756	収益事業備品積立預金	2,904,258
修繕積立預金	3,536,722		

【基金の取崩し】

基金名	金額	基金名	金額
福祉基金積立金	6,066,362	虹の会基金	850,892
備品購入積立金	10,011,918		

【定款及び諸規程の整備・要綱の整備】

日時	開催回数	内容
令和2年 4月23日	第1回 理事会	・人員配置変更に伴う各運営規程の一部改正 ・職員就業規則･準職員就業規則･非常勤職員就業規則一部改正
令和2年 7月21日	第4回 理事会	・職員就業規則・準職員就業規則・非常勤職員就業規則一部改正 ・経理規程の一部改正 ・小口現金取扱要綱の一部改正
令和2年 8月25日	第5回 理事会	・小規模多機能施設定員変更に伴う運営規程の一部改正
令和2年 9月24日	第6回 理事会	・障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B型)事業運営規程 ・あさごふれ愛の郷あおぞら共同生活援助事業運営規程 ・あさごふれ愛の郷あおぞら短期入所事業運営規程
令和2年 11月19日	第8回 理事会	・障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B型)事業運営規程の一部改正 ・障がい者(児)自立支援施設生活介護事業・就労継続支援(B型)事業運営規程の一部改正
令和3年 1月20日	第9回 理事会	・文書管理規程の一部改正
令和3年 2月25日	第10回 理事会	・総合職就業規則・一般職1種就業規則・一般職2種就業規則一部改正
令和3年 3月12日	第11回 理事会	・障がい者(児)複合型多機能施設建設に伴う定款変更

【資産取得状況】

○建物・構築物

資産名	取得価格	所　　属	備考
建物一式	292,670,500 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	一部国庫補助
職員駐車場舗装工事	2,255,000 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
自動販売機置場工事	363,000 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
合計	295,288,500 円		

○器具・備品

資産名	取得価格	所　　属	備考
ゴミステーション	547,250 円	小規模多機能施設おくらべ	
	547,250 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
ＡＥＤ一式	286,000 円	あさごふれ愛の郷 YOU・愛センター	
	286,000 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
LAN ディスク・ハードディスク	104,060 円	小規模多機能施設ひなたぼっこ	
	104,060 円	小規模多機能施設おくらべ	
加湿空気清浄機	118,000 円	小規模多機能施設おくらべ	
ﾃｰﾌﾞﾙ・ﾁｪｱｰ式	682,000 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	やまぶき財団
テレビ(50 型)	140,800 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
コイン洗濯機 2 台	974,310 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	木口財団
電話一式	581,900 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	長谷川福祉会
食器消毒保管庫	431,200 円	あさごふれ愛の郷あおぞら	
相談支援訪問ｼｽﾃﾑ	1,618,100 円	介護・障害サービス	感染症交付金
合計	6,420,930 円		

○ソフトウェエア

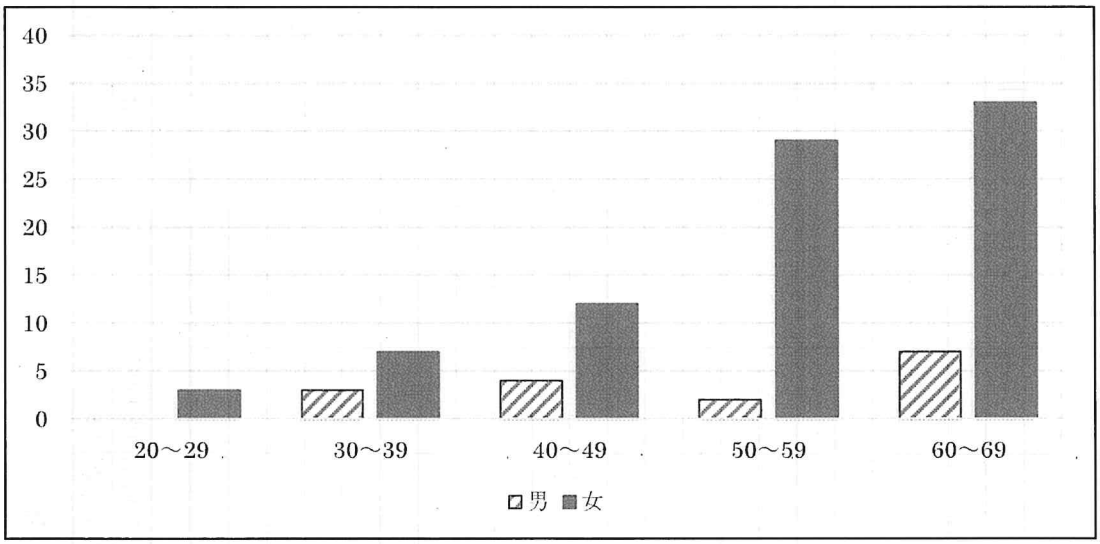
資産名	取得価格	所　　属	備考
勤務表作成ｼｽﾃﾑ	1,710,500 円	介護・障害サービス	感染症交付金
送迎 navi ｼｽﾃﾑ	775,500 円	介護・障害サービス	感染症交付金
訪問用ｹｱﾊﾟﾚｯﾄｼｽﾃﾑ	1,363,450 円	介護サービス	感染症交付金
合計	3,849,450 円		

○投資有価証券

資産名	取得価格	所　　属	備考
加入出資金	100,000 円	法人運営	但陽信用金庫

【職員男女別年齢階層一覧　（全職員）】

（人数）　　R3. 3. 31 現在



（単位：人）

年齢	男	女	総数
20～29	0	3	3
30～39	3	7	10
40～49	4	12	16
50～59	2	29	31
60～69	7	33	40
総数	16	84	100

（年齢）

	平均年齢
男性	49 歳
女性	54 歳
全体平均	53 歳

※50 歳～69 歳までの年齢が全体の 7 割を占めている。
若年層の定着と採用が課題である。

【介護職員等処遇改善加算】

「介護職員処遇改善交付金」制度導入後、介護職員の確保・定着を図ることを目的として導入している。高齢者施設、障がい者施設で働く職員のみならず、法人財源も補填し地域福祉等で働く職員も対象として処遇を改善する取り組みも継続的に行っている。介護職員処遇改善加算Ⅰを取り入れ、特別手当、職能手当等の充実を図ることで、職員のモチベーションの向上に取り組み、法人の活性化を図った。

現在取得の加算

介護保険系　介護職員処遇改善加算（Ⅰ）　介護職員等特定処遇改善加算

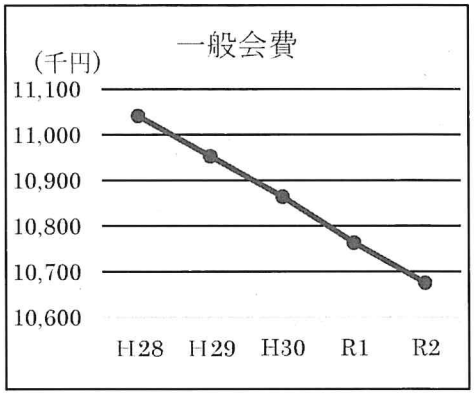
障害福祉系　福祉・介護職員処遇改善加算（Ⅰ）　福祉・介護職員等特定処遇改善加算

【社協会費】

《一般会費》　一口：1,200 円

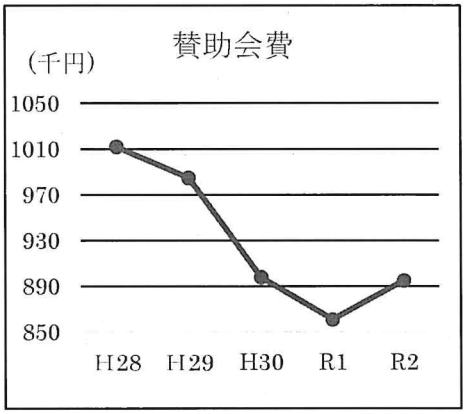
地域 ｾﾝﾀｰ名	地区数	加入口数	会費額 (R2 年度)
生　野	20	1,296.1	1,555,400
和田山	73	4,299.4	5,159,300
山　東	40	1,508.9	1,810,700
朝　来	31	1,792.4	2,150,900
計	164	8,896.8	10,676,300

※加入口数≠会費額



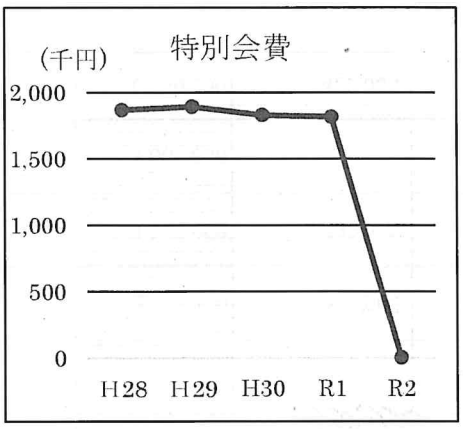
《賛助会費》　一口：3,000 円

区　分	加入口数	会費額 (R2 年度)
民生児童委員	138	414,000
市役所	37	111,000
職　員	88	264,000
そ の 他	34.3	103,000
計	297.3	892,000



《特別会費》　一口：5,000 円

地域センター名	加入口数	会費額 (R2 年度)
生　野	0	0
和田山	1.0	5,000
山　東	0	0
朝　来	0	0
市　外	0	0
計	1.0	5,000



※コロナ禍の状況下にあり、令和 2 年度は特別会費募集を行わなかった。

【職員資格取得】

主な福祉関係等資格者数　　令和 3 年 3 月 31 日現在

資格種類	30 年度	元年度	2 年度	資格種類	30 年度	元年度	2 年度
社会福祉主事	19 人	20 人	19 人	訪問介護(1 級・2 級) (介護職員初任者研修課程含)	57 人	52 人	51 人

介護福祉士	45 人	39 人	37 人	介護支援専門員	14 人	13 人	13 人
社会福祉士	6 人	6 人	6 人	看護師	7 人	7 人	6 人
保育士	12 人	12 人	11 人				

【定款変更関係】

障がい者（児）複合型多機能施設の完成を受け、基本財産に組み入れるため定款の一部を変更した。

※記載内容

・兵庫県朝来市新井字山田 1 番地 1, 他所在
・鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき 2 階建
・障がい者支援施設 1 棟(1, 152.40 ㎡)

※協議

年月日	協議	内容
令和 3 年 3 月 12 日	第 11 回理事会	障がい者（児）複合型多機能施設建設に伴う定款変更について
令和 3 年 3 月 19 日	第 49 回評議員会	障がい者（児）複合型多機能施設建設に伴う定款変更について

※変更条文の比較

変更前の条文	変更後の条文
第 9 章　資産及び会計 （資産の区分） 第 35 条　この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他、収益事業用財産の 3 種とする。 2　基本財産は、 次の各号に掲げる財産をもって構成する。 （3）建物 ～省略～	第 9 章　資産及び会計 （資産の区分） 第 35 条　この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他、収益事業用財産の 3 種とする。 2　基本財産は、 次の各号に掲げる財産をもって構成する。 （3）建物 ～省略～ ⑥兵庫県朝来市新井字山田 1 番地 1, 他所在 鉄骨造合板メッキ鋼板ぶき 2 階建 障がい者支援施設 1 棟(1, 152.40 ㎡) 附　則 この定款は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

【各種寄付・助成金関係】

次の団体・事業所様より社会貢献として次の物品を恵贈、助成を頂いた。

団体名（敬称略）	配置・設置先	内容	数量
特定非営利活動法人 リョービ社会貢献基金生野部会	小規模多機能施設ひなたぼっこ	蓄熱ラグマット	1
	小規模多機能施設ひなたぼっこ	レク用品	1
	あさごふれ愛の郷あおぞら	タブレット	1
	あさごふれ愛の郷あおぞら	熱中症暑さ指数計	3
イオンリテール株式会社 イオン和田山店	あさごふれ愛の郷あおぞら	掃除機	2
	あさごふれ愛の郷あおぞら	木製収納ケース	3
	あさごふれ愛の郷あおぞら	体重計	1
	あさごふれ愛の郷YOU・愛センター	デジタルカメラ	1
	あさごふれ愛の郷YOU・愛センター	LED ｼｰﾘﾝｸﾞﾗｲﾄ取替	1

令和２年度は、障害者(児)複合型多機能施設の建設にあたり、下記の財団様より、建設に伴った助成金や備品整備の助成金を頂いた。

・公益財団法人神戸やまぶき財団様から複合型施設建設助成金
・木口福祉財団様からコイン洗濯機購入助成金(設置等込み)
・一般財団法人長谷川福祉会様から令和２年度社会福祉活動助成金

熱中症暑さ指数計



レク用品(点鳥ﾙｰﾚｯﾄｾｯﾄ)



【 収益事業 】

衣裳貸出事業（昭和 51 年開始）

市民の生活改善の一環として、朝来地域センターで冠婚葬祭に関わる衣裳の貸し出し事業を展開。この事業は県内社協では３市（相生市・赤穂市・朝来市）が行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大により、結婚式の取りやめ、お葬式を家族葬にするなどに伴い留袖、モーニング、喪服の貸し出しが少なくなった。

◇令和２年度 事業実積

貸出品目	平成30年度 件数	令和元年度 件数	令和２年度実績 件数／利用金額（円）	
振　　袖	25	19	**26**	**1,635,700**
留　　袖	76	39	**15**	**202,400**
モーニング	51	29	**15**	**66,000**
喪　　服	6	4	**1**	**5,500**
長　襦　袢	74	42	**17**	**18,700**
礼　　服	3	3	**1**	**4,400**
草履・バッグセット	50	33	**30**	**132,000**
そ　の　他	50	41	**22**	**135,300**
貸出合計	3,303,000円	2,272,100円	**127**	**2,200,000**

◇成人式用振袖の予約について

（令和４年用　令和年３月26日現在予約件数　14件）

令和３年１月26日から随時、翌年の予約を受け付けしている。

◇衣裳価格表（税抜き）

留袖	4,000円 ～ 19,000円
振袖	38,000円 ～ 67,000円
モーニング・礼服	4,000円
喪服	5,000円

その他、小振袖・袴・草履バック多数保有

衣裳保有枚数　（R3.3末現在）

留　袖	124着
振　袖	104着
色留袖	10着
モーニング	20着
お宮参り着	7着
留袖帯	83本
振袖帯	107本
喪服(夏)(冬)	15着
礼服(夏)(冬)	20着

◇ポイント

・他の業者より品質・格安でお得。

・成人式の振袖ご予約で、もれなく足袋プレゼント

・クリーニングが不要でお手軽に返却できる。

◇ホームページに振袖・留袖一覧掲載

感染症対策として、衣裳部屋滞在時間の短縮を図るため自宅で着物選びが、出来るようにホームページに振袖・留袖一覧を掲載した。非常に見やすく遠くに離れている家族とも同じ画面で相談しながら選べると喜んでいただけた。



【職員研修】

職員の育成は重要な課題であり、継続したキャリアパス制度の実施とその充実と、職員意識と機能向上に向け、研修体系に基づき階層別研修を実施した。

研修名：新任職員研修

・実施日：令和２年６月 12 日、10 月９日
・対象職員：新任職員研修
・今年度は、前期に１回、後期に１回の計２回実施。
１回目は、社会人としての接遇マナー・コミュニケーション・社会人として意識改革を学んだ。２回目は、社協職員としての気づきの力の大切さを、法人内の気づきの実例を取り入れながらディスカッションを通して学んだ。
・講師は、法人管理職。

研修名：福祉・介護リスクマネジメント研修

・実施日：７月 22 日
・対象職員：管理職、中間管理職（課長補佐、施設長、係長）
・新型コロナウイルス感染症拡大による今後の福祉サービスの提供のあり方について、動画などを視聴し、各部署での対応について、ディスカッションを通して学んだ。
・講師は、法人管理職　新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での対応（ＤＶＤ）

・実施日：９月 29 日
・対象職員：主任、サブリーダー、サービス提供責任者
・「人に仕事をはりつける。仕事に人をはりつける。」の違いについて、ディスカッションを行い、「仕事に人をはりつける」を基本に業務の割り振りや職員育成など有効な人材活用を実施できるよう取り組むことを学んだ。
・講師は、法人管理職

研修名：財務諸表研修

・実施日：10 月 21 日
・対象職員：中間管理職（課長補佐、施設長、係長）
・昨年度は、決算資料を使いながら財務諸表の見方など必要な知識を基礎から学んだが、今年度は、損益分岐点を活用し、経営状況の見方や各施設の状況を確認した。また人件費率、人材生産性、利用率などを学んだ。
・講師は、法人管理職。

研修名：気づきの研修

・実施日：11 月 20 日

・対象職員：一般職員（各部署から１人ずつ　計 13 人）
・法人内の気づきの実例を活用し、書き手の心情や改善すべき点等、どんなことに気づくかをディスカッションし、職員の気づきの重要性を学んだ。
・講師は、法人管理職。

研修名：感染予防研修

感染対策委員会では、感染予防に関する年間計画を作成し、各部署で感染予防に努めた。特に新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、より一層 予防の意識を高め、各部署で手洗いや手指消毒の徹底を行った。

また 10 月～11 月にかけて各部署で嘔吐物処理研修を実施した。

今後も引き続き新型コロナウイルス感染防止、感染症拡大防止に向けて取り組みを継続し、緊急時に冷静に対処できるよう対応シミュレーションを各部署で行い職員個々が適切な動きができるよう取り組んでいく。

【気づき報告提出と総括】

平成 27 年 3 月から全職員に対して「1 週間の気づき・良かった記録(報告書)」の提出を求め、またその抜粋を理事会に報告しながら職員の気づき力を高めるよう実施してきた。職員の気づき力を高め日常業務の改善を繋がるよう継続してきましたが、「一週間の気づき報告書」を新様式に変更し、《気づいた課題》《改善の提案》《リスクの評価》《部署の対応》などの項目を設定し、日常業務での気づきを業務改善が具体的に検討できるように取り組むこととした。

【第 3 次朝来市地域福祉推進計画・第 3 次朝来市社会福祉協議会発展計画の策定】

平成 28 年度から 5 か年の「第 2 次朝来市地域福祉推進計画」及び「第 2 次朝来市社会福祉協議会発展計画」が令和 2 年度で終了し、令和 3 年度から令和 7 年度までの、「第 3 次朝来市地域福祉推進計画」及び「第 3 次朝来市社会福祉協議会発展計画」を策定した。



地域福祉推進計画においては、「しくみ・しかけづくりを進める」「人づくり・地域づくりを進める」「仲間づくりを進める」として、具体的な 15 の活動項目を設定した。

特に、人間の究極のしあわせ、①愛されること　②褒められること　③人の役に立つこと　④人に必要とされることを意識しながら、生涯現役でいきいきと暮らせる共生社会に向け、「Enjoy ライフ de 生きがいサポーター(略称：生きサポ)」を推進する。発展計画においては、大きく「組織」「財政」「活動」「情報・ＩＴ」「人財」に

ついて、それぞれの分野での提案を行った。今後も持続していく法人であるために、業務の平準化、建物や事業の統合や整理、業務の中でＩＴ技術を活用し業務効率の改善を図ることなどを提案した。

【広報・ホームページ】

①広報誌「社協だよりあさご」の発行

令和２年度も、「社協だよりあさご」を年６回（各 10 ページ）発行し、市内全戸（約 12,300 部）と関係機関等（約 250 部）に配布。各号でさまざまな事業や活動を紹介することで、本会への理解を深めると共に、市民へ地域福祉や地域共生社会に関する啓発などをおこなった。

また、本年１月に開所した障がい者（児）複合型多機能施設『あさごふれ愛の郷あおぞら』の完成までの道のりを毎号紹介した。

号　数	発効月	主　な　内　容
第 91 号	5 月	表紙　自然と笑みがこぼれるひとときを （施設利用者の手作りお花見） 記事　令和２年度活動基本方針と活動計画の概要等 障がい者（児）複合型多機能施設建設に向けて最終調整
第 92 号	7 月	表紙　念願の多機能施設建設スタート　～『地鎮祭』～ 記事　障がい者（児）複合型多機能施設建設に向けて ケーブルテレビ放送　新型コロナに負けるな！！ ～こんな時でも笑顔を忘れずに！～　（高齢者施設の話題）
第 93 号	9 月	表紙　ひと夏の体験　サマーボランティア 記事　「障がい者（児）複合型多機能施設」建設へ 赤い羽根共同募金　10 月１日よりスタートします！ 訪問介護サービスの紹介
第 94 号	11 月	表紙　赤い羽根共同募金　街頭募金活動 記事　「障がい者（児）複合型多機能施設」完成を目指して サマーボランティア体験教室　その後… 「困りごとお助け隊」会員募集中！
第 95 号	1 月	表紙　障がい者（児）複合型多機能施設『あさごふれ愛の郷あおぞら』　1 月 12 日開所！（外観写真：カラー） 記事　伊藤会長　年頭のあいさつ 「障がい者（児）複合型多機能施設」内部紹介等 令和４年成人式振袖予約受付の案内（裏表紙：カラー）
第 96 号	3 月	表紙　あたらしい「あおぞら」でワクワクな毎日 （あおぞら利用者が書かれた絵） 記事　あさごふれ愛の郷あおぞら開所しました

		共同募金のお礼（法人募金ご芳名紹介：別折込チラシ） コロナ対策をおこないながらの集いの場紹介

②ホームページ

社協活動の紹介・情報発信の手段として、また様々な事業への申請等の様式提供を行うためホームページを公開している。ブログでは、様々な地域との関わりや各施設での利用者の様子を始め、ちょっとした季節の話題などを紹介し、タイムリーな情報発信や話題の提供に努めた（投稿回数 158 回：昨年度 245 回）。また、「福祉なんでも相談窓口」「オンライン申請」や「貸出用留袖・振袖一覧」等のバナーを新たに設け、利便性の向上に努めた。

③社協リーフレット

朝来市社協の主な事業を紹介したリーフレットを 13,000 部作成し、市民・団体・事業所へ会費協力依頼時に配布し、活動の周知に努めた。

④情報紙の発行

民生委員・児童委員の皆様への地域情報誌「ハーモニー」や社協委員だより「～ＯＮＥ　ＭＯＲＥ～」を発行し、より細やかな情報発信を行った。

⑤各種パンフレットの発行

⑥「ミニデイ・ぷちサロンスタッフ」グループ LINE の活用

ミニデイ・ぷちサロンスタッフの「交流の場」や「情報交換の場」として、グループ LINE ミニデイ・ぷちサロン交流掲示板を活用し、連絡や情報の共有を行った。

⑦その他

各地域センターや各施設での行事や事業などの情報を、各運営委員やご利用者ご家族を中心に定期的に情報発信を行った。

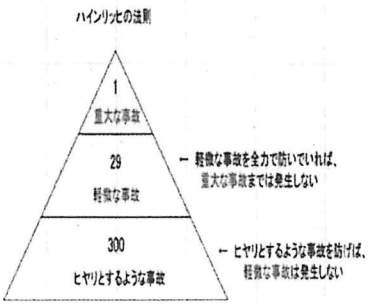
今後も、ホームページや広報誌を始め情報紙やたよりなど、デジタルとアナログ双方を活用しながら、より有効的でわかりやすい広報活動に努めていきたい。

【苦情・事故の状況】

令和２年度、発生した事故・苦情は以下のとおりであり、事故を防止する対策として、令和３年度は、「なぜ起こったのか」「再発防止のためにやる事（提案）」「リスクの自己評価」などを記載し部署内で検証し、事故防止に取り組む。

・事故報告件数 126 件
（一般事故 106 件、車両事故 20 件）
・ヒヤリハット 574 件

（令和３年３月 31 日現在）



① 一般事故の状況

レベル	件数	主なもの
ヒヤリとするような事故・ミス（うっかり）	64	・サービス調整ミス・訪問漏れ・訪問間違い ・サービス提供ミス・服薬確認ミス・訪問時調整ミス ・配食配達ミス・送迎ミス・出張 研修手続きミス ・事務処理忘れ・請求処理ミス・物品・備品破損 ・連絡ミス・事務連絡漏れ・報告ミス・発注ミス ・請求事務・勤怠報告ミス
軽微な事故	42	・服薬管理ミス・援助中の転倒・援助中の怪我 ・器具設備破損・パソコンセキュリティ不備 ・請求書提出ミス・備品不適切処理・支払いミス ・訪問ミス・金銭処理ミス・契約書不備
合計	106	

② 車輌事故の状況（状況別事故件数）（令和３年３月 31 日現在）

状　況	件数	状　況	件数
発進時	2	駐停車中	7
後進時	7	その他	2
走行中	2		
		合計	20

内容	件数
接触	17
脱輪	2
その他	1
合計	20

③ 各部署でのヒヤリハットの取組み

部署名	件数	部署名	件数	部署名	件数
総務課	61	朝来地域センター	15	おくらべ	86
総合支援課	56	いきいき介護センター	21	ひばり	56
生野地域センター	14	かしのき園	39	えんや	59
和田山地域センター	28	ふらっと	23	あおぞら	63
山東地域センター	12	ひなたぼっこ	6	ＹＯＵ・愛センター	35
				合 計	574

④ ご意見･苦情状況（令和３年３月 31 日現在）

事業名（内容）	相手先	件数
おくらべ（サービス提供について）	利用者家族より	1
おくらべ（サービス利用の相談について）	利用者家族より	1
いきいき介護センター（担当者について）	利用者家族より	1
ひばり（交通ルールについて）	市民より	1
	合　計	4



【障がい者（児）複合型多機能施設関係】

○補助金等

・国県施設整備費補助金　175,348,000 円

（内訳：多機能型 158,369,000 円　共同生活援助 16,979,000 円）

・市運営費補助　　57,000,000 円

○建設に関する報告

設計監理業者：有限会社ウイング（朝来市和田山町枚田岡 177 番地）

建設業者　　：株式会社川見建設（豊岡市出石町町分 252 番地）

建設地	兵庫県朝来市新井１番地１
構　造	鉄骨造２階建て 外壁：軽量気泡コンクリート 屋根：金属板縦葺き
規　模	建 築 面 積　652.5 ㎡ 1 階 床 面 積　570.5 ㎡ 2 階 床 面 積　581.9 ㎡ 延 べ 床 面 積　1,152.4 ㎡

建設費	
当　初	238,000,000 円 （税込み 261,800,000 円）
変更後	254,000,000 円 （税込み 279,400,000 円）

工期	
当　初	令和２年４月 23 日～ 令和２年 11 月 30 日
変更後	令和２年４月 23 日～ 令和２年 12 月 25 日

項　目	日　程	備　考
国・県補助金内示	令和元年６月 28 日	
国・県補助金決定	令和元年 10 月１日	
建設業者入札	令和２年４月 16 日	入札業者６社（うち２社辞退） ・株式会社川見建設（落札）
建設開始	令和２年４月 23 日	
地鎮祭	令和２年５月 30 日	
県中間検査	令和２年９月 15 日	
県完了検査	令和２年 12 月 15 日	
建設完了・引き渡し	令和２年 12 月 25 日	
開所式	令和３年１月８日	
事業開始	令和３年１月 12 日	就労継続支援Ｂ型、生活介護 就労移行支援
事業開始	令和３年２月１日	共同生活援助（グループホーム） 短期入所

項　目	日　程	備　考
第1回理事会	令和2年4月23日	建設業者決定
第7回理事会	令和2年10月27日	追加工事に伴う変更について(スプリンクラーの設置、ユニットバス追加、周辺舗装工事他)

理事会等の調整について

○助成金に関する報告　　(単位：円)

助成団体	助成金額	購入内容
木口福祉財団 (芦屋市)	780,000	コイン洗濯機2台（グループホーム）
神戸やまぶき財団 (神戸市)	2,530,000	カーテンブラインド、ベッドマットレス、ベッド（全事業）
長谷川福祉会 (神戸市)	440,000	電話システム（就労移行他） ソファー（生活介護）
計	3,750,000	

【一体改革会議】

・高齢者施設一体改革会議

小規模多機能施設（ひなたぼっこ・おくらべ・ひばり・宅老所えんや）
認知症通所介護施設宅老所ふらっと、デイサービスセンターかしのき園　計6施設

・令和2年度　計12回の会議を実施。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取り組みを、各施設から報告。
施設内での密閉・密集・密接を防ぐため、集団レクリエーションのあり方や食事の際の対応や、施設利用までの利用者の健康チェック（検温）などを実施。

《研究・協議事項》

・「人に仕事をはりつける。仕事に人をはりつける。」のイメージの統一。
・利用者連絡票の記載方法の変更（施設での業務検査実施）
・1日の施設の動き　一番人が動く時間は？
・勤務作成支援システムの導入による勤務の平準化
・施設のサービス提供項目をトイレ介助、入浴介助、食事介助など、一つ一つの業務を分解し、時間配分や職員配置を検証

・あさごふれ愛の郷一体改革会議

生活介護事業所（あおぞら）

就労継続支援Ｂ型事業所（あさひ・かがやき）
放課後等デイサービス（YOU・愛センター）　　計４事業所

・令和２年度　計３回の会議を実施。
《研究・協議事項》
・利用者工賃の見直し
・ヒヤリハットをどう活かすか？
・情報発信
・障がい者（児）複合型多機能施設開所に向けて（事業検討プロジェクトへ）
《障がい者（児）複合型多機能施設事業検討プロジェクト》
・７月１日から障がい者（児）複合型多機能施設事業検討プロジェクトを設け、あさごふれ愛の職員に加え、介護保険施設、いきいき介護センター、総務課、総合支援課の職員 計22名で具体的な事業内容について協議、検討を行った。
・プロジェクトメンバーを６つのグループに分け、生活介護、就労継続支援Ｂ型、就労移行支援、短期入所、共同生活援助の５つの事業と全体（共通事項）担当１つに分け協議を進めた。
・グループごとの会議は３回から４回開催し、各グループ代表が管理職を含めた調整会議で具体的な事業の取り組みを報告し、調整を行った。

【災害救援・支援関係】

令和２年７月豪雨災害で被災された地域に対し、義援金の募集を通じて支援を行った。

（支援先）
熊本県・鹿児島県・大分県・福岡県・岐阜県・佐賀県・島根県・長野県・山形県

（義援金）
朝来市善意銀行 100,000 円、社協各部局窓口募金箱 17,948 円

（送金先）
中央共同募金会を通じ各被災地に配分された



募金呼びかけの為作成したチラシ

【団体事務関係】

各福祉団体の事業推進を図るために次の６団体の事務局を担当し、自主運営を基本として事業全般の運営補助業務を行った。

朝来市老人クラブ連合会	朝来市身体障害者福祉協会
朝来市婦人共励会	朝来市手をつなぐ育成会
朝来市子ども会連絡協議会	兵庫県遺族会朝来市支部

特記事項

① 新型コロナウイルス感染症拡大による２度の緊急事態宣言により、屋外での活動以外は中止となった。次年度の活動に向けて役員と協議検討を行っている。

② 朝来市老人クラブ連合会では、加入クラブ・会員の減少傾向が年々続いており、解決策の一つとして市老連未加入の複数地区を併せて一つの老人クラブとして活動できるように働きかけたが、実現には至らなかった。



朝来市老人クラブ連合会グラウンドゴルフ大会開催の様子

【善意銀行】

預託者のご意思を尊重し、効果的な配分を行う善意の活用窓口として『善意銀行』を運営。地域センター・本部にて金銭預託や物品預託を受け付けた。また、火災見舞いや、生活困窮世帯への緊急援助の食糧や物資、被災地域への災害義援金のため払い戻した。

① 預託申請状況

	生野	和田山	山東	朝来	市外	合計
供養の預託	9 件	13 件	11 件	11 件		44 件
善意の預託	6 件	6 件	17 件	22 件	2 件	53 件
物品預託	2 件	9 件	5 件	6 件		22 件

② 払出申請状況

地域または法人から払出申請があり、法人において必要性が精査された上で払出を実施した。

内　　容	件数	金　額
火災見舞	1 件	60,000 円
災害義援金（中央共同募金会を通じて被災地へ）	1 件	100,000 円
生活困窮者（お米）	5 件	0 円
歳末助けあい事業（お米・食料品・灯油他）	9 件	84,393 円
福祉施設備品整備（ラグ他）	1 件	0 円
福祉施設日用品（座布団他）	2 件	0 円
福祉施設食品（野菜）	1 件	0 円
福祉施設消耗品（タオル他）	3 件	0 円
福祉施設消耗品（マスク）	3 件	0 円
合　計	24 件	244,393 円

※生活困窮者への緊急食糧支援（レトルト食品等）は別事業で予算化し、対応

③ 歳末時期の預託と対応

歳末助け合い運動の主旨に賛同され下記のとおり預託を受けた。その後、生活困窮者等の方々に健やかで温かな新年を迎えていただくことを目的とし、該当世帯にお米や食料品、灯油等をお届けした。（詳細は総合相談事業にて報告）

団体名	金　額	団体名	金　額
但馬地域兵庫県職員一同様	27,000 円	山東町仏教会　様	35,280 円
生野町仏教会　様	185,022 円	糸井大蔵仏教会　様	30,000 円
日蓮宗兵庫県北部宗務所様	40,600 円	合　計	317,902 円

④ 食糧支援に係る物品預託（フードドライブ）

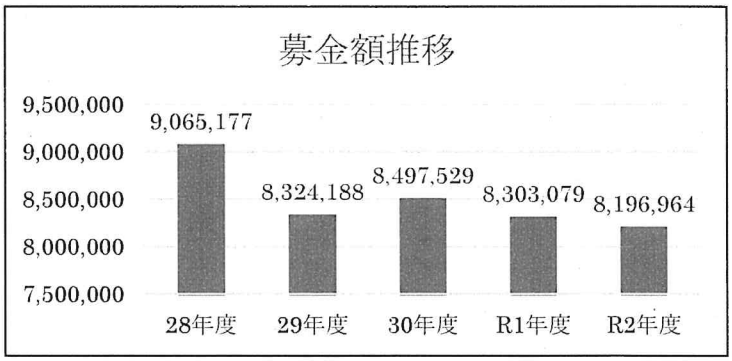
広報誌やホームページなどで生活困窮者の緊急食糧支援に必要な食糧を呼び掛け、古米やレトルト食品、お菓子、缶詰等の寄付をいただいた。都度必要な方に緊急食糧支援として活用させていただいた。

【共同募金関係】

朝来市共同募金委員会の事務局を担当しており、市内での募金運動を展開している。

1～3 月の広報強化月間では学校募金にご協力頂いた児童・生徒の皆さんに「あかはねちゃんサポーター証明書」を発行すること等で啓発活動に努めた。

《令和 2 年度実績》	
戸別募金	6,239,737 円
法人募金	1,465,100 円
職域募金	156,445 円
学校募金	134,892 円
街頭募金	59,778 円
その他	141,012 円
合　計	**8,196,964 円**





令和 2 年度は、小学生サッカーチーム（SC ガナドール）に街頭募金キャンペーンのボランティアを依頼、元気よく笑顔で声掛けをしていただいた。

令和元年度に引き続き、ミニデイ・ぷちサロン活動に取り組まれるグループに募金を依頼し、多くの協力をいただいた。戸別募金、法人募金に関してはコロナ禍の影響がありながらも多くのご協力をいただいた。その反面、街頭募金に関してはコロナ禍の影響が多く、前年度を下回った。今後、配分事業についても見直しを図り新たな事業への充当を計画していく。

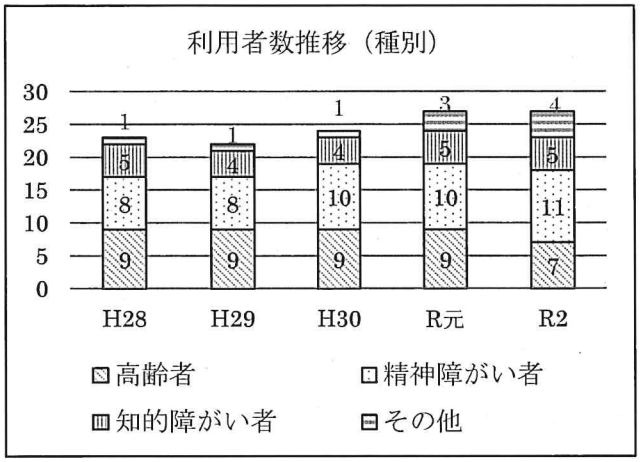
《 令和元年度共同募金実績により、令和２年度社協へ配分を受けて実施した事業 》

配食サービス事業	地域応援助成事業	困りごとお助け隊事業
日常生活支援事業	福祉教育助成事業	ほっとコミュニケーション事業
とまり木サロン和田山	短期宿泊訓練施設のぞみ	広報・ホームページ事業

【日常生活自立支援事業】

判断能力に不安のある在宅の高齢者や知的・精神障がい者等の福祉サービスの利用の援助や、生活費管理の手伝い、通帳や書類の管理に不安があればお預かりした。

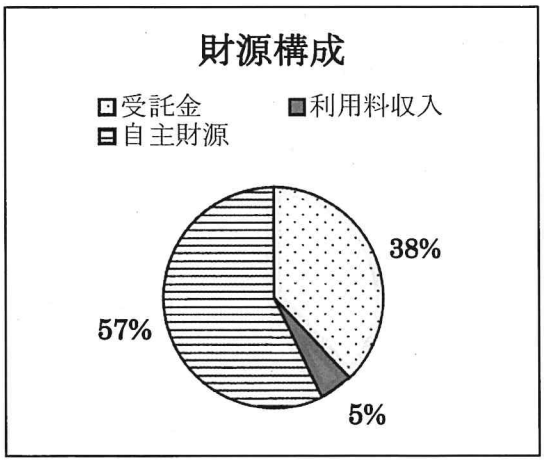
専門員、生活支援員、地域センター職員による定期的な関わりのもと、行政等関係機関、地域の支援者と連携を図りながら、ご利用者の生活の安定や自立の向上に努めた。



実利用者数	27 名
内 生活保護受給者	10 名

支援の頻度	
毎週	17 名
2 週間に 1 回	9 名
不定期・その他	1 名

利用者の状況	
高齢者（認知症等）	7 名
知的障がい者	5 名
精神障がい者	11 名
その他	4 名



（現状と課題）

・新型コロナウイルス感染防止のため、　３密状態を避け、支援時間の短縮、利用者が体調不良の際は支援を延期したりするなどの対応を心掛けた。しかし、利用者は色々な理解や判断が乏しく、時間の短縮や接触機会の回避は難しい。会ってお話することが理解を進め、安心をもたらすことも考え、感染対策に充分に留意しながら事業を実施した。

・利用者が子供や兄弟と同居するケースが増えてきた。その場合、同居人にも利用者と同じくらいの関わりが求められる時もあり、一律的な支援では対応が難しく、労力と時間が必要になっている。また、社協職員側も一人では対応が難しく、複数名での対応が必要になってきている。

【相談事業】

≪結婚相談関係≫

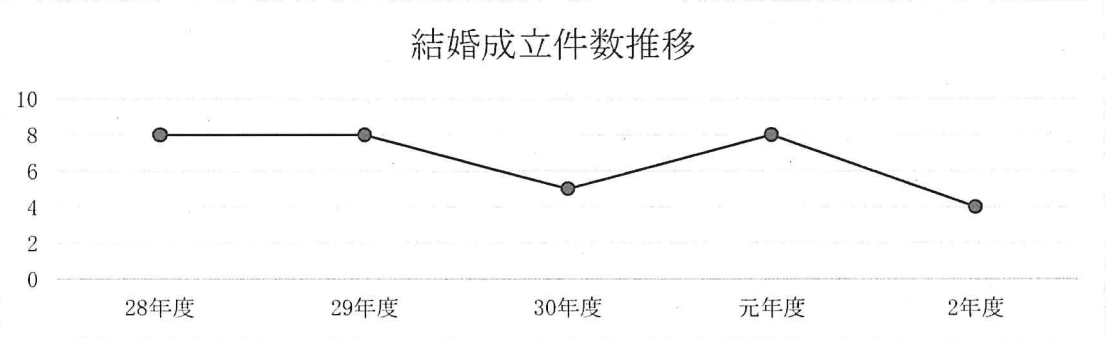
様々な理由により結婚に悩みを持たれている独身男女を対象にした相談業務を朝来市内12名の相談員が但馬管内社協の相談員等と連携しながら実施した。

令和2年度はオンラインにて登録が行えるよう環境整備を行ったことで、多くの方に当相談事業を周知することが出来た。

《活動状況》

紹介	見合い	相談	成婚	
			登録者	未登録者
120	23	917	1	3

※令和2年度は新型コロナウィルス感染症拡大により、紹介・見合い件数に影響があった。



≪福祉なんでも相談関係≫

『福祉なんでも相談窓口』として、高齢者・障がい者・生活困窮など日常生活上の福祉に関わる相談を受け、社協各部署で職員が対応した。

分類	件数	相談内容	対応結果
高齢者関係	2件	子に貸しているお金を何とかしたい。	子に掛けている保険が満期となり、子の口座に入金されたというもので、家族間で話あわれる事をお勧めする。
障がい者関係	8件	就職できずに悩んでいる。	何度もお話を伺う中で、ご自分で就職先を見つけられた。

生活困窮関係	1件	家族不和により実家を出て朝来市にいるが、金銭的に困っている。	行政機関への相談をお勧めする。
その他	7件	他界した子の通帳に残金があるので処理したい。	金融機関に相続手続きの書類をお送りいただき対応する。

【高齢者相談関係（高齢者相談センター）】

和田山町糸井地区・大蔵地区・東河地区の高齢者相談窓口として市より受託し、担当地域の高齢者の地域生活をサポートした。

＜年度別実績件数＞

相談内容	R2年度	R1年度	H30年度	H29年度
介護保険に関する相談	573件	459件	346件	419件
見守り訪問等での生活状況の把握、その他	355件	390件	602件	838件
各種福祉サービスに関する相談	164件	71件	135件	165件
福祉用具・住宅改修に関する相談	126件	163件	99件	122件
ケアマネジャー選定支援に関する相談	109件	120件	122件	100件
認知症に関する介護・生活・医療相談	63件	85件	100件	73件
認知症以外の介護・生活・医療相談	0件	0件	2件	10件
医療機関との入退院調整	62件	45件	15件	10件
地域ケア会議、カンファレンス等	2件	3件	3件	4件
虐待、成年後見に関する相談	0件	2件	5件	0件
地域ミニデイ等への支援	89件	205件	180件	61件
計	1,543件	1,543件	1,609件	1,802件

＜現状について＞

・ご家族から受ける相談の中で認知症に関する事が多くなっているが、本人は自覚がないため介護保険のサービスに繋がりにくいのが現状である。サービス利用にあたって本人の気持ちを重視するが、介護されている家族のサービス利用への気持ちも大切だと感じさせられたケースが多くあった。

・地域の方から気になる家族があると相談が入るが、何処にもＳＯＳを出されず関わり方の難しい家族。奥様が寝たきり状態とお聞きし介護保険の申請をお勧めし、認定調査時に緊急性が発覚する。結果、医療機関へも繋がるきっかけとなった。このようにＳＯＳを出されない家庭には、地域との連携を取りながら関わっていく必要がある。地域の気づき力（発見力）の大切さを痛感する事象であった。

【総合相談事業】（障がい者・児相談、高齢者相談、生活困窮者相談）

【障がい者・児相談】

＜現状について＞

新型コロナウィルス感染拡大による緊急事態宣言や感染予防などの影響で利用者、ご家族の今までの生活スタイルやサービス利用に対する考え方に大きな変化が見られた。

また、相談支援事業所にとっても感染予防に留意しながらの訪問やオンラインを活用しての会議参加など業務スタイルが変化している。

○利用者、ご家族の生活スタイルの変化の一例

・環境変化への対応が難しい児童にとっては、緊急事態宣言発令されたことにより新学期の学校生活に馴染む機会が失われ、新たな友達や先生との関係づくりや学校生活に支障が出てしまった。
・放課後等デイサービス事業所の新たな事業所を確保したいとお考えのご家族と事業所見学の同行を行った。
・新型コロナウイルス感染予防のため入所施設では外部からの来訪や面会が制限された。
・在宅の方は感染予防として外出を控えられた結果、ストレスやテレビ等の報道により不安を感じると訴えられた。また、訪問を避けてほしいと話されたり、短期入所等のサービス利用を控えられる利用者、ご家族がおられた。

〈時流に合わせた業務改善と IT 化の導入について〉

業務のムリ・ムダの解消や短縮化を図り、業務の平準化（どの職員でも担当できるよう業務内容を整備していくこと）を目指すため業務改善のミーティングを開催し、業務改善への考え方について職員間の意思統一を図った。

また、訪問等外出先でモニタリング書類等の印刷や記録の確認ができるようにタブレット型端末を試験導入し、業務改善や効率化を図れるよう進めている。

［業務改善ミーティング］

実施日	場所	内容
令和２年 ９月 10 日	朝来庁舎２階 第３会議室	業務の偏りや事務作業の 見直しについて
令和３年 ３月１日	朝来庁舎３階 第７会議室	タブレット型端末導入と 業務改善の考え方について
令和３年 ３月 17 日	本部内	相談支援の記録についての 考え方について



試験導入されたタブレット型端末とモバイルプリンター

【生活困窮者支援】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
対応者数	26	33	22	18	18	24	22	18	22	14	17	27	261
継続	7	14	9	12	7	14	8	14	13	8	9	12	127
新規	19	19	13	6	11	10	14	4	9	6	8	15	134
終了	10	33	22	18	18	14	15	7	18	6	7	13	181

離婚・失業・転職等、一時的に生活に困窮された世帯に対し、それぞれの実情に応じた生活支援を行い、危機的な状況からの脱却に向け支援を行った。

＜月別対応状況一覧＞

（対象者）　延べ人数　261 名　　（単位:名）

＜主な支援内容＞　　※貸付相談は除く

主な支援	件数	内　容
食糧支援	15 件	インスタント食品、米、食材等
歳末助け合い事業での支援	9 件	歳末助け合い運動として食糧や灯油等を提供
住宅環境整備	2 件	庭木の伐採（1 件）、水道修理（1 件）
家計管理・支援	2 件	家計のやり繰りの相談、支援
生活困窮者への見守り訪問	7 件	生活困窮状態に陥ることを未然に防ぐため、主に高齢者への定期訪問、見守り訪問等

＜歳末助け合い事業＞

生活困窮者等の方々に健やかで温かな新年を迎えていただくため、善意銀行にいただいた歳末助け合いの浄財を活用して食糧等をお届けした。（生活保護世帯は除く）



実施日	令和 2 年 12 月 24 日（水）～28 日（月）
対象者	社協の把握している生活困窮者　9 世帯 15 人
食糧等	お米、おでんセット、焼き豚、ハム、ゆであずき、鏡餅、切り餅、黒豆、みかん、灯油、ポリタンク

＜課題＞

今年はコロナの影響を受けた生活費借入希望の相談が多かった。慢性的な困窮世帯、多重債務を抱えている世帯、母子世帯などはコロナの影響を受けやすい傾向にあり、かろうじて成り立っていた自転車操業的な生活が限界にきていることが伺えた。しかしながら、そういった世帯に根本的な生活習慣や経済観念の見直しなどの意欲は見られず、一過性の対応には限界があり、今後も厳しいことが見通され並走型支援の必要性を痛感した。

【ひきこもり対策】

≪対象者≫

様々な原因の結果として、社会参加（就労・家庭外での交遊等）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態が持続している方を対象とし関りを持たせていただいている。

現在、当対策チームにて対象とするひきこもり当事者の人数は26名（男性15名、女性16名）。

≪対応数≫

訪問	電話	面談	その他
26	48	3	9

≪現状について≫

訪問時にお伺いした心配ごとなどに対し対応を行いながら、将来を見据えた障害福祉サービスの利用・国民健康保険への加入等に伴う支援を行った。

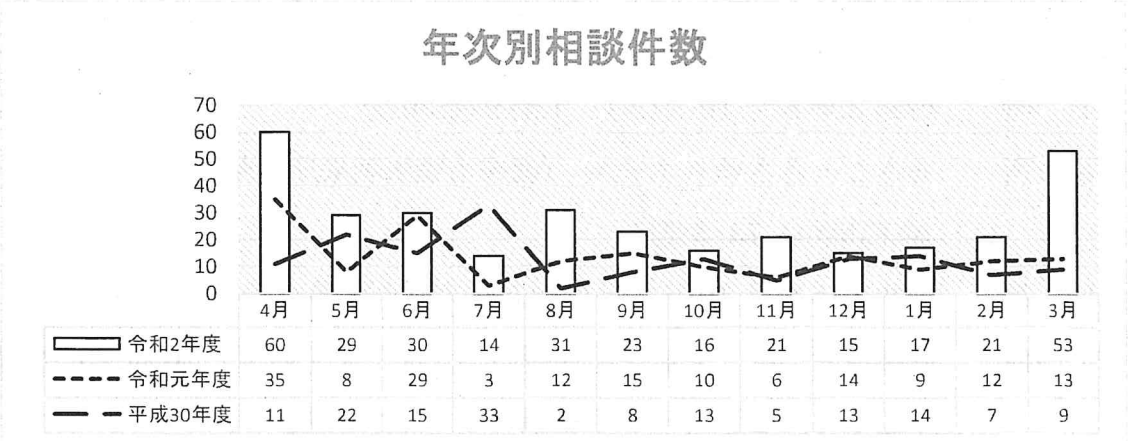
ただ、訪問しても必ずお会いできるわけではなく、中には未だにお会い出来ていない方もあるが、そのようなケースではご家族との関係性の構築に努めた。

≪今後の課題≫

当対策チームだけで支援が完結することなどあり得ず、精神保健の専門家・民生委員・福祉サービス事業所・行政といった関係する機関との連携は必須となる。

【資金貸付事業】

失業、病気、けがなど様々な理由で日常生活の維持が困難となっている世帯に対し、課題の解決と世帯の自立を支援することを目的とする事業である。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた世帯から、多くの貸付や生活に関する相談を受けた。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	60	29	30	14	31	23	16	21	15	17	21	53
令和元年度	35	8	29	3	12	15	10	6	14	9	12	13
平成30年度	11	22	15	33	2	8	13	5	13	14	7	9

《法外援護資金》

様々な理由により一時的に生活困窮となった世帯に、生活の改善・自立更生を目的とする貸付を行った。貸付は本会の独自財源をもって行った。

貸付限度額・・100,000円　　貸付利子・・無利子　　償還期間・・1年以内

貸付状況(令和3年3月31日現在)

年度当初残高	①　478,900円
年度内貸付額 (件数)	②　45,000円 (2件)
年度内償還額	③　112,500円
償還免除額	④　0円
年度末残高	①＋②－③－④ 411,400円

◆状況と課題

＊民生委員及び市社会福祉課、日常生活自立支援事業担当者と連携して貸付した。

＊退職後、コロナウイルス感染拡大により就業につながりにくい方に対し、雇用保険料初回受給までの生活費の貸付の他、緊急食糧支援も行った

償還中	8世帯
滞納中	5世帯

《生活福祉資金》

他から融資を受ける事が困難な低所得世帯・障がい者世帯・介護を要する65歳以上の高齢者世帯、失業により生活に困窮されている世帯を対象とする貸付制度。

実施主体・・・兵庫県社会福祉協議会　　新規貸付・・・令和2年度1件

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、失業や休業等による収入の減少で生活に困窮し日常生活の維持が困難になっている世帯に対し生活費を貸し付け自立に向けた取り組みを支援することを目的とした「緊急小口資金」と「総合支援資金」の新型コロナウイルス特例貸付を行った。

～～緊急小口資金～～　　貸付件数計：60件　　貸付金額計:989万円

＊緊急かつ一時的な生活費のための少額貸し付け（上限額20万円）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	4	15	6	6	2	5	4	1	2	0	2	13
貸付金額 (万円)	50	215	100	100	40	90	54	10	40	0	40	250

～～総合支援資金～～　　貸付件数計：9件　　貸付金額計:306万円

＊失業や収入減少により生活に困窮した世帯に対し生活再建を行う間の生活費の貸し付け
（20万円（単身世帯15万円）×3ヶ月以内）

＊新型コロナの影響の長期化により、総合支援資金貸付は“延長”“再貸付”の申し込みが可能となった

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	0	1	1	2	1	3	0	0	1	0	0	0
貸付金額（万円）	0	10	45	120	45	76	0	0	10	0	0	0

【あさまる支援事業】

本会介護保険事業所と契約されている方を対象に、介護保険制度上のサービスだけでなく、制度外のサービスを本事業が提供することにより、利用者の個別ニーズに柔軟に対応。住み慣れた地域での生活を応援した。

「あさまる支援事業」サービス内容

	サービス内容	利用料金
訪　問	① 通院時の付き添いや院内での介助、処方箋の提出を行う。 ② 見守りや話し相手、散歩、安否確認などの生活支援を行う	30 分　　780 円
宿　泊	冠婚葬祭や虐待など、緊急の場合の宿泊サービスを行う。 ・ 送迎と入浴は原則不可 ・ 1 日 1 名の利用 ・ 医療処置のない方を対象とする	1 回　10,000 円 朝食　　200 円 夕食　　680 円
早朝・夜間対応サービス	早朝・夜間の利用時間を拡大し、利用者様及びご家族様の便宜を図る。 ・早朝　　7：00～　9：30 ・夜間　　16：00～20：00	かしのき園 30 分　780 円 ふらっと　30 分　780 円

■令和２年度　あさまる支援事業利用実績（月別利用状況）（人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訪　問	4	—	4	1	1	—	2	—	3	1	3	1	20
通　所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
早朝・夜間	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0

【実施した支援内容】

※今年度は通院介助、季節に応じた衣類の整理、シーツ交換等の支援を行った。

あさまる支援で対応することにより、ご利用者のニーズにあった柔軟なサービスを提供したことでご利用者・ご家族から「家族が対応できない時、受診に付き添ってもらい助かった。」等の声があった。

【今後のあさまる支援事業の課題】

※より充実した個別ニーズに応えるためには支援員確保の検討が必要である。

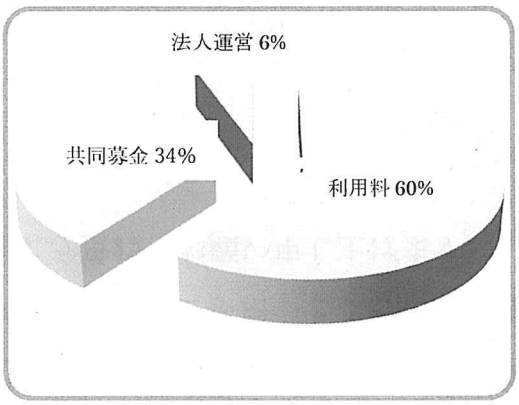
また独居の方等、緊急時即対応できるよう前もって契約をする見極めが必要である。

【配食サービス事業】

70歳以上の在宅一人暮らし世帯及び高齢者のみの世帯等で、食事の確保が困難な方、安否確認が必要な方を対象に、希望される曜日の昼食と、夕食（曜日限定：生野・朝来地域　火・木曜、和田山・山東地域　水・金曜）に弁当をお届けした。平日は、保温容器弁当とパック弁当の2形態によりサービスを提供。土・日・祝祭日・年末年始については、パック弁当のみでの提供とした。

- 利用日　365日
- 利用料　保温容器弁当：500円／パック弁当：450円
  （減免対象者はいずれも300円）

《事業財源内訳》



この事業の財源の予算内訳は、利用料収入が約417万円、共同募金による配分金が約250万円、法人からの持ち出しが約40万円となっている。民間業者では対応が難しい山間地域への配達や制度では対応が困難な利用者宅への配達を共同募金の貴重な財源を活用し行った。

《ニーズに基づく配食サービスについて》

より良い配食サービスを目指す為、利用開始時や前回のアセスメントから1年以上経過している利用者のお宅を訪問し、現在の生活の様子や身体状況、親族・近隣の方との関わり等に変わりがないかをお聞きした。また、食物アレルギーや服薬の関係で食べられない食品がある方には、委託業者と相談のうえ対応した。

《より効率的な配食事業を目指して》

委託業者を4店舗にし、山東・和田山地域と朝来・生野地域をそれぞれのルートでおこなう曜日を設定することで、より効率的な配達を行える様にした。

《困りごとお助け隊事業について》

サービスを希望されている方に、配食時何か困りごとは無いかお聞きし、電化製品の使用方法の説明や電球の取り換え、服薬への声掛け等を行った。

《安否確認を兼ねた配食サービス》

配食時、利用者が道路で義足がはずれ転倒し、助けを呼んでおられた事があった。急いで利用者を起こしケガ等が無いかを確認、幸いケガ等は無くすぐにご近所に住まれている親戚の方に来ていただいた。見守りも兼ねた配食サービスの必要性を感じた。

【配食利用総食数】

令和２年度	10,767 食
令和元年度	8,982 食

【校区・年代別利用者数】　（単位：名）

年齢／校区	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計
糸　井				1		4			5
大　蔵					1	1	1		3
和田山			1	2	1	3	3	2	12
東　河									0
竹　田						3	1	2	6
梁　瀬			1		1	1	1	1	5
粟　鹿	1								1
与布土						2	1		3
中　川			2			1		1	4
山　口		1	2	1	2	2	6	1	15
生　野					2	1	1		4
奥銀谷			1		1	2	4	1	9
合　計	1	1	7	4	8	20	18	8	67

（単位：名）

利用頻度／校区	昼食								夕食
	毎日	週6日	週5日	週4日	週3日	週2日	週1日	合計	
糸　井		1	1		2	1		5	
大　蔵					1		2	3	2
和田山	7		1		2		2	12	3
東　河								0	
竹　田	2		1		2	1		6	2
梁　瀬	2		1	2				5	2
粟　鹿	1							1	1
与布土			1		1	1		3	
中　川	1			1		2		4	2
山　口	7		4		2	2		15	5
生　野			1	1		2		4	1
奥銀谷	3		1		1	4		9	
合　計	23	1	11	4	11	13	4	67	18

【福祉バザー】

地域住民の福祉への参画と、収益の福祉活動への充当を目的に開催した。

≪生野地域≫

日程	場　所	内　　容	売　上
7/26	生野小学校体育館	①市民の方からの物品提供によるバザー ②ヒラキ株式会社様からの商品提供による販売 ③いくの地域自治協議会まなび部会による「子育て支援リサイクルバザー」も同会場にて同時開催 ※新型コロナウィルスによる緊急事態宣言の為、当初予定していた令和２年３月より４か月間延期した上での開催となった	114,984円

※新型コロナウイルス感染拡大を予防する為の、３密（密閉・密集・密接）を避ける為に、換気

や時間差入場等の取組を行った。

≪糸井・大蔵・和田山・東河・竹田地域≫

10月25日～11月8日にかけて各小学校区単位にて開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大傾向が持続している状況を踏まえ開催を中止とした。



【ボランティア市民活動センター】

ボランティア活動を支援するため本部総合支援課で「朝来市ボランティア市民活動センター」を所轄し、各地域センターではボランティア活動者の相談窓口として活動支援を行った。

（１）登録ボランティアグループの状況［令和３年３月末現在］

区分		団体数	前年比	増減理由
福祉関係	地域でのサロンやミニデイ	85	±0	グループの高齢化等で解散（△4） 新規グループ（＋4）
	子育て支援等	9		
	宅老所・給食家事援助等	6		
	移送サービス・外出支援	0		
	手話・要約筆記・点訳・朗読等	5		
	施設支援	21		
まちづくりに関する活動		12		

社会教育に関する活動	1		
環境保全に関する活動	9	△1	グループ高齢化で解散（△1）
文化・芸術・スポーツに関する活動	22		
その他	10		
合計	180	△1	

	人数	前年比増減
個人ボランティア	60	＋4
ボランティアグループ	2,464	△12
合計	2,524	△8

（2）ボランティアに関する相談・コーディネート

（単位：件）

相談依頼者内訳	件数
市民	3
ボランティア	36
施設・医療機関	2
学校・教育機関	1
その他	0
合計	42

（単位：件）

相談内容の内訳	件数
活動希望	2
ボランティア派遣	15
資材に関する事	1
資金に関する事	23
その他	1
合計	42

（3）県民ボランタリー活動助成事業

該当グループへの情報提供・窓口対応等の事務の取扱いを行った。

実施主体	ひょうごボランタリープラザ
対　　象	県内で活動している登録ボランティアグループ
要件・助成額	①構 成 員　5名以上 ②活動実績　年間12回以上 ③助 成 額　28,000円 ④そ の 他　新型コロナウイルス感染予防対策により年間活動が要件を満たさなくとも柔軟な対応が行われた。

（4）夏ものがたりボランティア体験教室

市内に在住・在学する中・高校生を対象に、ボランティア活動を通じて人と人とのふれあいや思いやり支え合いの心を育むことを目的として、マスクや雑巾を手作りして被災地にお届けした。

	第１回	第２回
開催日	８月８日（土）	８月 22 日（土）
場所	朝来生涯学習センター	和田山生涯学習センター
参加人数	11 名（生野高４名、和田山高３名、朝来中４名）	９名（生野高２名、和田山高６名、和田山中１名）
協力	ボランティア１名	ボランティア１名





参加いただいた学生の皆さんの集合写真

【山東いこいの家】

朝来市山東支所の委託事業。各区の世話人さんや民生委員の皆さんにご協力いただき、概ね 60 歳以上の方を対象に旧小学校単位（梁瀬・粟鹿・与布土）を基本単位にレクリエーション、講話等を通じて生きがいづくり、健康づくり活動を実施した。

●令和２年度各地区別登録数・参加人数等状況

地　区	梁　瀬	粟　鹿	与布土	合　計
登録者数	63 名	78 名	38 名	179 名
参加実人数	53 名	50 名	32 名	135 名
皆勤賞	33 名	26 名	18 名	77 名



●令和２年度開催内容

開催月	開催内容	参加人数
７月	講座　奥藤浩二氏 レクリエーション　民謡＆歌謡カラオケ歌おう会 ※午前：梁瀬地区、午後：粟鹿・与布土地区	130 名
10 月	講座　大西みち子氏 レクリエーション　岡本慶彦氏 ※午前：粟鹿・与布土地区、午後：梁瀬地区	110 名

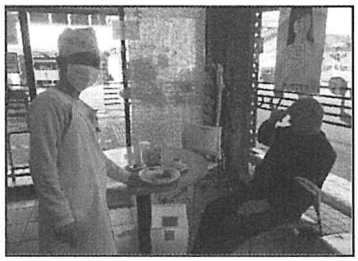
12月	講座　山下昇氏 レクリエーション　あさご落語会 ※午前：梁瀬地区、午後：粟鹿・与布土地区	97名

●今年度の変更点

新型コロナウイルス感染症予防に関する朝来市の対策を受け4月に予定していた始業式が、緊急事態宣言を受け2月に予定していた終業式が中止となる。
開催した3回も3密を避けるため、午前、午後の2回に分けて実施した。
なお、この「山東いこいの家」は今年度で終了となり、今後は各自治協議会でそれぞれの特性を生かした形で継承される。

【とまり木サロンわだやま】

近隣の方々や、和田山を訪れた方々の集いの場として様々な方にご利用していただきコミュニケーションの場として日々にぎわっている。
モーニングサービス：月曜日・水曜日　週2回提供



●あさごふれ愛の郷あおぞら利用者が、接客、サロン内清掃や片付け等就労訓練の場として日々、スタッフとともに励んでいる

●新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまでボランティアグループや個人の方にご協力いただき行ってきた以下のイベント等を中止している。
ハンドマッサージ、歌声ひろば、折り紙教室、寺谷直売所の朝市等

●年間実績

開所日数	利用人員	1日平均利用者数	利用料合計
210日	5,212人	24.8人	1,021,973円

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4/22から5月末までの間、営業を休止する。（6月1日より営業を再開する。）

●新型コロナウイルス感染症拡大防止について

・室内外のベンチを撤去
・全テーブルへ飛沫感染防止ガードを設置
・テーブル、椅子数を減らし客席間の一定の距離を保った。

【介護用品支給事業】

介護認定要介護 4 及び 5、またはそれに相当すると認められた高齢者や特定疾病の方を在宅で介護されている市民非課税世帯の家族に対して介護用品の支給を行った。

◆対象期間　　令和 2 年 7 月 1 日～令和 3 年 6 月 30 日

◆支給額　　75,000 円(上限額)

区分＼地域センター	生野	和田山	山東	朝来	合計
支給決定者数(人)	7 名	14 名	6 名	9 名	36 名
支給決定額(円)	481,250 円	993,750 円	412,500 円	625,000 円	2,512,500 円
利用者数(延べ人数)	23 名	92 名	30 名	35 名	180 名
実利用額(円)	197,430 円	616,860 円	188,520 円	224,510 円	1,227,320 円
3 月末執行率	41.0%	62.1%	45.7%	35,9%	

◆具体的な相談内容

1 週間後に入所されることが決まった利用者。残額でパジャマと肌着をもらいたいとケアマネジャーからの要望があった。すぐに業者に連絡、事情を説明し早急に対応いただき、入所 2 日前にお渡しすることができた。

◆地域センターでの実例

・L サイズの用品を使われていた利用者が途中から M サイズを使われるようになり、体調を危惧する。

・長くご主人を介護されていた利用者。亡くなられたと善意銀行を持ってきてくださり「世話することがなくなったら、なんか気が抜けた感じ。ここにもいろいろお世話になって、もう来ないようになるのは寂しいな」と仰る。

【あさご交流 Café】

結婚を意識する独身男女の「出会いの場」の提供を目的に婚活イベントとして開催した。新型コロナウイルスによる感染拡大の影響もあり、これまでにない開催方法を検討する必要があった。

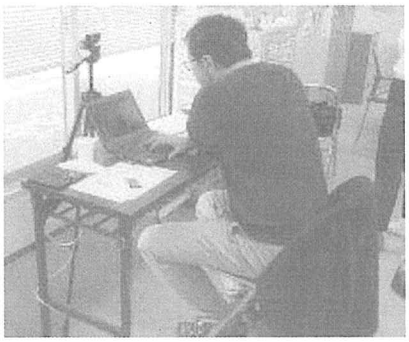
≪開催状況≫

	月日	場所	参加者	備考
1	8/23	カッセル	―	新型コロナウイルス感染症拡大によるキャンセルが申込者より多数あったことから急遽開催中止とした。
2	2/21	朝来庁舎	男性 5	2/23 で使用するアプリケーションの相談会を実施。

	2/23	参加者自宅	男性 5 女性 4	リモートにて開催、カップルは3組成立した。
	2/28	Mr.MasaCOFFEE	男性 1 女性 1	2/23 にカップル成立した男女に対面の機会を設けた。

≪開催風景≫
司会進行役・アプリ操作進行役などの役割を複数のスタッフで分担し開催した。

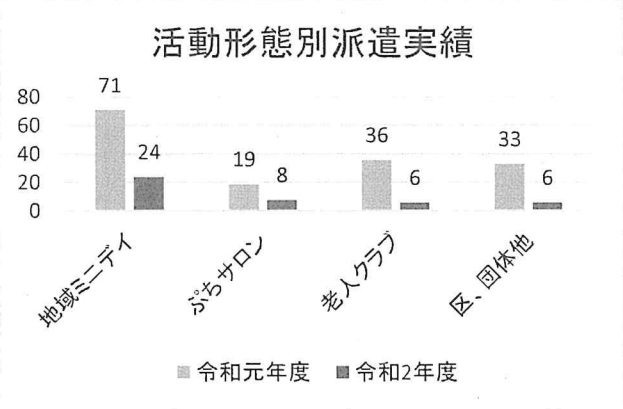


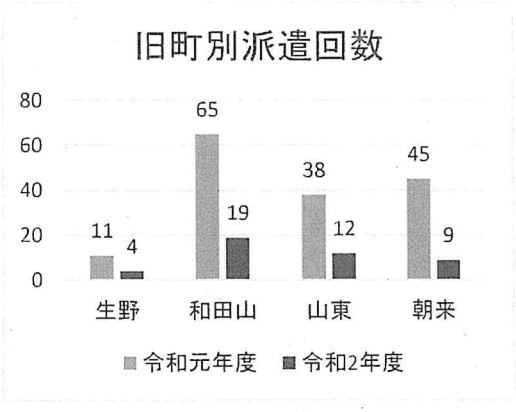


【地域ミニデイ指導者派遣事業】

ダンス、楽器演奏、落語、手品、健康体操など多彩な趣味・特技を持った方に、『地域ミニデイ指導者』(ふれあい講師)として登録していただき、市内各地で開催される地域ミニデイ・ぷちサロン・老人クラブ等の「集い」を盛り上げる為に派遣した。また、「ふれあい講師おすすめ百科」を作成し集いの場に配布、ホームページで講師の活動の様子が分かる動画や写真を紹介した。

ふれあい講師は地域の集い活動の活性化、またはマンネリ化防止など継続した活動を側面的に支援することを目的に派遣するが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で下記図のように派遣数は激減した。





～課題～

コロナ禍における外出を控える高齢者のフレイル予防、地域の人と人のつながりを保つためのミニデイ、ぷちサロンの役割は大きいものがあるが、新型コロナウイルスの感染拡大

の影響で集いの開催を自粛されたところが多い。その為ふれあい講師の派遣が激減した。今後は集いの開催を躊躇されているグループなど訪問して、感染予防対策が徹底された集いが開催出来るよう支援する。

【地域ミニデイサービス事業】

2年度はコロナウイルスの影響で集う機会が激減したが、ミニデイ・ぷちサロン実施者から集いの場の必要性を今まで以上に聞く年であった。助成事業の報告数としては「ミニデイ」も「ぷちサロン」は下記の通りです。飲食をせずに体操をして帰宅する集まりも多くあったり、安否確認の意味を含めたメンバー間のやりとり等も見られた。男性が集まりにくい事に関して生活支援コーディネーターでも話し合い、「より簡単で」「より使い勝手の良い」助成事業とする為にオンライン申請ができるようにした。

＜ミニデイとは＞

年間で計画を立てて、地域住民が気軽に集える場所で仲間づくりや出会いの場づくりをする活動。

＜ぷちサロンとは＞

年間定期・不定期を問わずに、地域住民が気軽に集える場所で仲間づくりや出会いの場づくりをする活動。

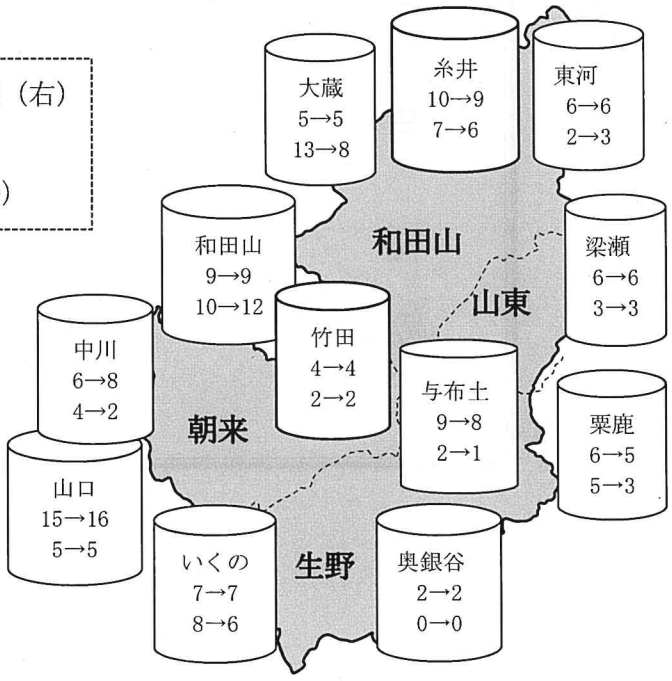
地域ミニデイ	ぷちサロン
24回以上　60,000円を上限 13～23回　40,000円を上限 4～12回　30,000円を上限 に助成した。	参加する地域住民が5名以上で、そのうち65歳以上が半数以上占めるグループが助成対象。 2,000円を上限に100円単位で助成した。（年度内助成回数10回まで）

●朝来市内 普及状況（社協把握分）

令和2年3月（左）　令和3年3月現在（右）	
ミニデイグループ数	85⇒85（±0）
ぷちサロングループ数	61⇒51（△10）

【図の見方】





《旧町別ミニデイ助成事業実績》

	令和元年度	令和2年度
生　野	340,000円	290,000円
和田山	1,300,000円	1,232,000円
山　東	872,000円	850,000円
朝　来	646,000円	709,000円

《ぷちサロン年間参加者数》

	令和元年度	令和2年度
グループ数	61グループ	51グループ
参加者数	5,098人	2,445人
内65歳以上	4,786人	2,294人

●ミニデイ・ぷちサロン交流会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止した。

●「ミニデイ・ぷちサロン　スタッフ」グループLINEの活用

ミニデイ・ぷちサロンスタッフの「交流の場」や「情報交換の場」として、グループLINEを用いて絶えず情報交換した。投稿される写真等で集いの様子が分かった。本会からも連絡や情報をお伝えした。

●オンライン申請の開始

利用者の声として申請・報告の煩わしさを聞くことがあり、より簡単でもっと気軽に利用できるようにスマートフォンやタブレット等からオンラインで申請ができるようにした。

＜オンラインで申請できる書類＞

個人・団体ボランティア登録　ぷちサロン申請・報告　ふれあい講師登録・申請・報告

●課題と今後の取組み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が中止しているグループの再開が課題となる。今後、屋外の開催や状況に応じた変わった取り組みがあれば紹介し、集いの場が継続して活動できるように後方支援する。

【総合事業】

≪生活支援コーディネーターの活動≫

●市内相互の支え合い活動に関する意見照会の実施

実施日	6/12（金）
対象者	区長、民生委員児童委員、社協委員、市内特養、法人内施設
内　容	地域の身近なところで「お困りごとがあり、それに対する支援があれば助かる」という内容を教えてください。
結　果	見守り・声かけ、買い物や病院等の送迎、草刈り、ゴミの分別・ゴミ出し等

●地域支え合いに関する意見照会の実施

実施日	12/7（月）
対象者	区長、民生委員児童委員、社協委員
内　容	あさごＳＩ助成事業について、地域での助け合いについて
結　果	あさごＳＩ助成事業で区全体が福祉について考える　「良いと思う」50% コロナの影響でどのようなことが変わったか　「人との関わりで変化があった」49%

●ボランティアやふれあい講師の登録、ぷちサロンの申請等について

オンラインでの登録や申請が可能となり、手続きを簡素化する事で利用していただきやすい仕組みとした。

●サポートちゃれんじゲーム（略して、「サポちゃれ」）の完成・実施

ゲームは、お願い（困っている）カードとちゃれんじ（支える）カードを使用し、支え合いの必要性が感じられるものとした。ゲームの実施で地域の支え合いを考えるきっかけを作った。社協委員会議（旧町単位で計４回）、民協定例会研修（山東、朝来で計２回）で実施し、ゲームを通じて具体的な困り事を知ることができ、将来の生活にどういった社会資源が必要になるのか等を話し合う事ができた。

●令和２年度社協委員会議の実施

開催日	12/10（木）生野校区、12/14（月）和田山校区、12/16（水）朝来校区、12/18（金）山東校区
会議内容	生きサポ事業の説明→「サポートちゃれんじゲーム」の実施→グループ協議→情報共有
主なご意見	「支え合いの具体的な事例の提示があり、どうしたらよいか地域で話し合いを進めやすい」 「ゲームをして課題の多さに改めて深刻に思った」 「お年寄りがどんな事を考え、思いを持っておられるのか知ることにつながる」

●民生委員児童委員協議会　研修会の参加

参加日	10/23（金）山東町、3/18（木）朝来
研修内容	社協委員会議と同じ
主なご意見	「自身の老後と重ねて、自分のできる事、してほしいことを考えることにつ

	ながった」 「地域での話し合いの大切さがわかった」 「何となく思っていたことが具体的に示されたことで新たに意識することができた」

●市担当課との協働

市の第1層生活支援コーディネーターと合同会議を年間11回開催。活動の中から見えてくる地域課題や個別事例の検討等を行った。個別事例の検討では、複数の生活支援コーディネーターが関わることで偏った見方のないようにして検討し、関係機関や福祉事業所、民生委員等と協力して見守る体制をつくった。また、移動に関する検討を行い、ニーズの欲求レベルや公共移動手段の現状、支援する人材等を総合的にみて、周りの意見だけではなく困っている本人の声を聞くことの大切さがわかった。情報共有する中で、集いの場はコロナ禍で集う機会が大幅に減少し、人との接点が減ることで集いの場の必要性を今まで以上に感じられていることがわかり、集いが再開できるように支援する。

●地域おたより便『やっとるでぇ～』

5月・6月　「新型コロナに負けるな！！」6回放送。

市長には初回に、社協会長は第2回目にメッセージをいただき、複数の市民にご協力いただき、市内にメッセージをお届けした。

≪今後の展開と課題≫

・サポートちゃれんじカードを通じて見えてきた課題等を検討しながら、生きサポ事業の実施に向けて調整を進める。
・助成事業の活用等で区内の支え合いを推進し、先進的な取り組みを広く紹介する。
・集いの場の活動が再開できるように、コロナ禍でも実施されている活動の工夫を、CATV等を通じて紹介する。
・移動の実態調査の検討。

【福祉センター管理事業】

◇朝来老人福祉保健センターを平成9年度より社会福祉協議会が運営を委託されている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防や隣接地での障がい者（児）複合型多機能施設建設工事の関係からか、利用頻度は例年に比べて大きく減少した。

◇センター機能

1. 相談窓口

人権相談　・・・　偶数月1回

福祉なんでも相談　・・・　随時

2. 高齢者の生きがい創造への活動の場

市老人クラブ連合会朝来支部女性部の活動

高齢者(女性)が健康維持や趣味活動を地域に広めようと、健康教室（ヨガ体操）やフラワーアレンジメント講習会を開催。

3. 一般福祉活動での利用

①社会福祉協議会関係

ケアマネジメント支援会議・感染症対策研修・あさごふれ愛の郷の活動等

②各種福祉団体

各種会議、打合せ等

③その他

◇１グループが、趣味のハーモニカ教室を月１回行われている。

◇年間利用者数　905 人（令和元年度 2,003 人）

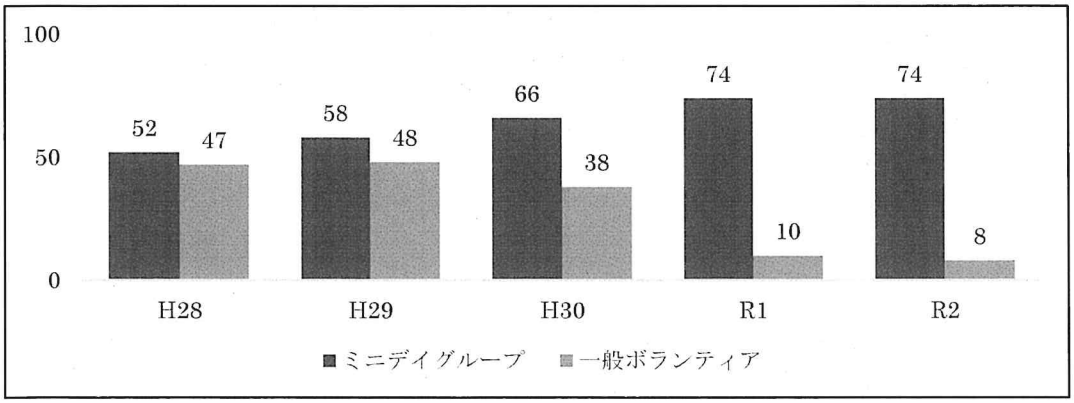
行政	福祉団体	社協	その他	合計
245 人	341 人	289 人	30 人	905 人

【ボランティアグループ育成助成事業】

ボランティア市民活動センターへの登録ボランティアグループを対象に、ボランティア活動の推進と活動費負担の軽減を目的に活動助成を行った。今年度コロナ禍の影響もあり、従来の活動とは違った、安否確認や友愛訪問等を行い、継続的に活動を行うグループが増えた。

	地域ミニデイグループ		一般ボランティアグループ	
	活動回数	助成上限	活動回数	助成上限
交付要件及び助成額	24 回以上	60,000 円	12 回以上	30,000 円
	13 回から 23 回	40,000 円	8 回から 11 回	20,000 円
	4 回から 12 回	30,000 円	4 回から 7 回	10,000 円

助成グループ数推移



助成金交付内訳

地域ミニデイグループ			一般ボランティアグループ		
活動回数	助成額	交付数	活動回数	助成額	交付数
24回以上	60,000円	23	12回以上	30,000円	2
〃	43,000円	1	〃	24,000円	1
13回から23回	40,000円	22	8回から11回	20,000円	1
4回から12回	30,000円	24	4回から 7回	17,000円	1
〃	26,000円	1	〃	15,000円	1
〃	20,000円	1	〃	10,000円	2
〃	10,000円	1	（活動内容）・施設ボランティア ・高齢者・障がい者支援 ・楽器演奏・健康体操 ・環境保全、美化活動　など		
24回以上	7,000円	1			
合　　計	82団体（ミニデイ 74団体・一般 8団体）				

今後の取組み

来年度よりミニデイグループ対象の助成事業は「つどいの場活動支援事業」、一般ボランティアグループ対象の助成事業は「ボランティアグループ育成・助成事業」に変更となりすみ分けを行う。

【ほっとコミュニケーション事業】

●対象者　75歳以上の独り暮らしの高齢者

●内　容　誕生月にあさごふれ愛の郷のクッキーを持って安否確認を兼ねた訪問。

今年度より、お花から「あさごふれ愛の郷かがやき」のクッキーをメインにしたプレゼントに変更し、お届けした。中には「こんなんもらっていいのかな。うれしかった」とお礼の電話も。

※ 令和2年度地区別対象人数

地域	生野地域		和田山地域					山東地域			朝来地域	
校区	生野	奥銀谷	糸井	大蔵	和田山	東河	竹田	梁瀬	粟鹿	与布土	山口	中川
人数	88	48	54	63	83	28	64	82	32	44	89	58
合計	136人		292人					158人			147人	

合計　733人（前年比18名増）

●お届け方法

朝来、山東、和田山各地域センターは民生委員さんに依頼

生野地域センターでは生野小学校6年生と職員が一緒にお届け

●エピソード



・今年度初めて対象になられた男性より「こんなんもらっていいのかな。うれしかったわ」とお電話をくださった。
・祝品をお届けに行くと、趣味の話、自身の性格の相談、庭園の自慢話等人との会話を求められているように感じた。
・届けてくださった民生委員さんが、家の中で倒れられていたのを発見。この事業がなければ発見できなかったと報告をいただいた。

●問題・課題点

対象者の情報は個人情報保護の関係で得ることが難しい。民生委員さんからの情報提供が頼りとなる。そのため、お祝いの品を用意した後に施設入所等の情報が入ることもある。

【福祉教育活動助成事業】

共同募金配分金を財源とし、市内各校に対して福祉の心を育む福祉教育活動の推進を目的とした助成金を交付した。今年度は従来の継続事業を一部残しながらも、新たに社協側から福祉的な情勢や地域課題を踏まえた複数の福祉教育のメニューを提示。それらを実践された。

（メニュー指定助成の一例）
・校内でプルタブを収集し、社協に届ける。その過程や仕組みを広報する
・新たに福祉体験学習を開催する
・ボランティアや市民活動についての学習を行う

① 各校助成決定額

学校	継続助成	メニュー指定助成	助成額合計
生野小学校	15,000 円	20,000 円	35,000 円
糸井小学校	15,000 円		15,000 円
大蔵小学校	15,000 円	10,000 円	25,000 円
枚田小学校	15,000 円	10,000 円	25,000 円
東河小学校	15,000 円	5,000 円	20,000 円
竹田小学校	15,000 円	10,000 円	25,000 円
梁瀬小学校	15,000 円		15,000 円
中川小学校	15,000 円		15,000 円
山口小学校	15,000 円		15,000 円
生野中学校	15,000 円		15,000 円

和田山中学校	15,000 円		15,000 円
梁瀬中学校	15,000 円		15,000 円
朝来中学校	15,000 円		15,000 円
生野高等学校	15,000 円	10,000 円	25,000 円
和田山高等学校	15,000 円	30,000 円	45,000 円
和田山特別支援学校	15,000 円		15,000 円
		合計	335,000 円

② 今年度の評価・課題

新型コロナウイルス感染症に警戒しながらも、新たな福祉学習に取り組もうとされる意欲的な学校が 7 校あった。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大いに受け、上記の助成金の執行ができず、返還いただいくケースが相次いだ。特に地域や当事者との交流活動などは自粛を余儀なくされ、学校の先生による事前学習のみに制限された学校は多かった。

次年度の申請にも大きく影響するところであり、その動向は注視される。

【ボランティア活動推進共済補助事業】

「兵庫県ボランティア市民活動災害共済」の加入窓口として広報・加入受付・掛金収受・事故初期(令和 2 年度 1 件)対応など行った。

また、朝来市ボランティア市民活動センターに登録しているボランティアのグループ及び個人に対して、社協が共済掛金一人 500 円のうち 200 円を負担し、活動の支援をおこなった。

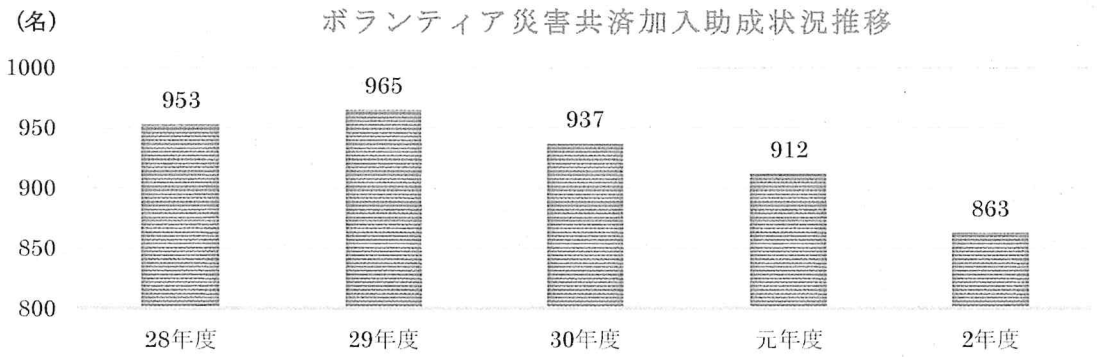
① 地域センター別加入実績

地域センター	生　野	和田山	山　東	朝　来	本　部	計
加入グループ数	15	32	24	9	25	105
加 入 者 数 （名）	148	306	242	74	899	1,669
個人加入者数（名）	1	0	0	0	5	6
加入者数合計（名）	149	306	242	74	904	1,675

② 年度別実績（金額は社協負担額）

年　　度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
助成人数(名)	953	965	937	912	863
金　　額(円)	190,600	193,000	192,900	182,400	172,600

※30 年度は、災害ボランティア参加者（全額社協負担 11 名）を含む。



※活動内容敵に保険までは必要とされないグループが増えつつあること。令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により活動そのものが減少したことで、加入人数に影響を及ぼしている。

【あさごＳＩ助成事業】（地域福祉体制整備事業）

地域の支え合い体制づくりとして、区の規約を改正し、福祉に関する部会または委員会を発足して福祉マップを作成される区に助成する。区内で「福祉」について考える機会をもつようにした。

実施区一覧表

実施区	実施回数	助成額
生野町新町区	2回	30,000円
和田山町竹田新町区	2回	30,000円
和田山町桑原区	2回	30,000円
和田山町高生田区	実施検討中	
口田路区	実施検討中	
合　計	6回	90,000円



実施区事業報告書（抜粋）

＜成果＞

・区民の防災意識、支え合い意識が高まった。

・区内で福祉に関する体制をつくることができた。

・各組長へ作成した福祉マップを配布し、災害時の対応について具体的な理解につながった。

・区内在住者の状況を把握することができ、役員間で情報共有することができた。

＜課題、今後の取り組み＞

・情報伝達について、スマートホンによるLINE等の連絡網を検討する。

・移動方法・備品等を確認する。

・部会または委員会の会議を定期開催し、福祉マップの更新をする。
・日常においても福祉の輪が行き届くような活動を継続する。
・区と区内のミニデイやぷちサロンが連携を図り活動を予定する。

【地域応援助成事業】

地域で食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより、地域の支え合い・助け合いづくりを推進することを目的として取り組む区を対象に助成をした。

助成メニューは以下の通り。

1．わがまち食堂助成事業

内容）食堂事業を開催し、世代間交流の機会を増やすことにより地域の支え合い、助け合い体制づくりを推進した区に、1回の食堂事業で20,000円を上限に助成した。（年度内3回まで）

2．Newわがまち食堂助成事業

内容）上記の内容に加えて、福祉マップを作成する。福祉マップづくりは1回限り25,000円を助成した。（年度内3回まで）

○実施区一覧表

申請区	実施回数	助成額
和田山町竹田新町区	1回	20,000円
和田山町西土田区	中止	
山東町溝黒区	中止	
山東町金浦区	中止	
合　計	1回	20,000円

○実施区事業報告書（抜粋）

高齢者の方々が一同に集まる機会がなくなり、新型コロナウイルス感染予防の観点からふれあう機会がより少なくなり、日常生活・健康面に不安をもつ方が増えた。そんな中、食堂事業を展開することにより語らいの場、楽しいひと時を過ごせたと思う。

○課題・今後の取り組み



各区より問い合わせや申請書をいただいたが、新型コロナウィルス感染予防の為中止となった。今後は注意喚起をしながら屋外での開催等の工夫も提案し事業を進める。

住民同士の関わり合いが希薄になりつつあるので、事業のメニューを増やし、区の実情に合わせて選べるような事業とする。

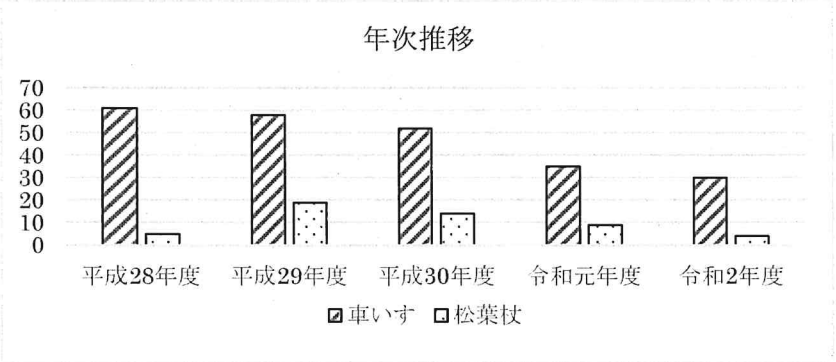
【福祉機器貸出事業】　（各地域センター）

短期に限り、車いす・松葉杖を無料で貸し出しを行っている。車いすは遠距離で大切な外

出などに利用されることが多く、松葉杖は急な負傷の際に利用されており、利用者に大変喜ばれている。一方、老朽化しているものも多く、一部買い替えが必要に感じる。

地域センター別貸出状況　（件）

福祉機器名	生野	朝来	和田山	山東	合計
車いす	12	3	9	6	30
松葉杖	0	0	3	1	4



【介護用品販売事業】

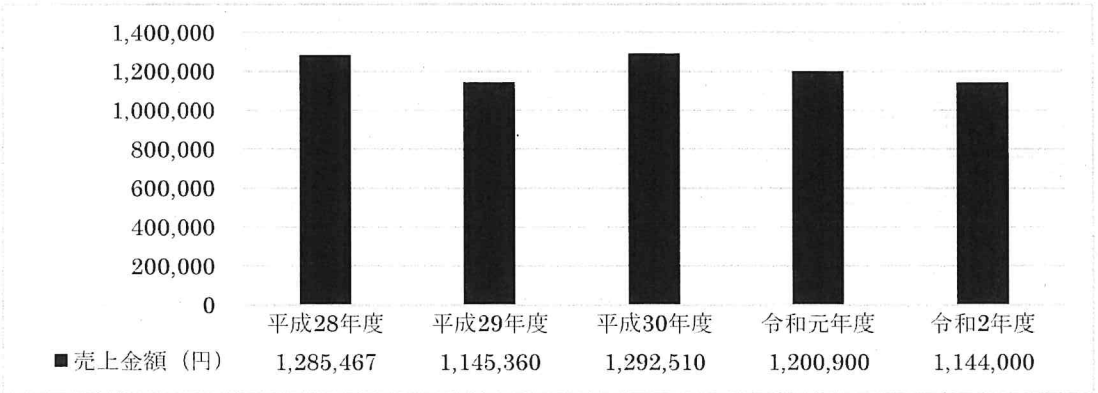
各地域センターで、紙おむつ・尿とりパッドなどの介護用品販売を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により介護用手袋の納品が停止され、介護者の用品調達の負担が増した。

また、訪問介護・居宅介護担当者から、対象の方にあった介護用品のご相談を受ける事もあり、商品に対する知識を今後も深めていく必要がある。

《各センター別販売個数》　（R2.4～R3.3）

生野地域	和田山地域	山東地域	朝来地域	販売総数
215	156	143	370	884

《売上年次推移》



【あさごふれ愛の郷あおぞら　生活介護事業】

●利用状況　（定員 15 名）＊R2 年 12 月までは 10 名

実利用者数　　13 名　（R3 年 3 月 31 日現在）

新規ご利用者　4 名

退所者　　1 名　（他事業所への入所のため　1 名　R3 年 3 月 31 日付け）

●月別延べ利用人数　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	172	156	192	178	165	152	164	153	157	125	164	200	1,978

●主な取り組み

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの行事（季節行事や外出等）が行えなかった。

・感染症対策の徹底に努めながら日々の生活支援を行った。

・障害特性に応じた個別の支援や日課の組み立てを行っている。



●今後の課題

・様々な障害特性に対応できる職員の力量と資質の向上がもとめられる。

・個別支援計画に基づくより具体的な支援の提供を行っていく。

【旧あさごふれ愛の郷あさひ】

●利用状況　（定員 19 名）＊R2 年 12 月 31 日まで

実利用者数　　21 名　（R2 年 12 月 31 日現在）

新規利用者　　2 名

退所利用者　　1 名　（在宅でのサービス利用となった）

●月別延べ利用人数　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
人数	280	241	295	298	281	298	365	293	295	2,646

●主な取り組みと作業状況

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で作業の受注が減少し、十分な作業が提供できない日が多かった。

佳長菓子箱折り作業（4 月～10 月までは受注なし。）

・その他施設外作業でも感染拡大防止のため通常の仕事ができなかった。

とまり木サロンわだやまを閉鎖（R2 年 4 月 22 日～5 月末）
和田山ホテル・ツタヤ・ふるさとの清掃作業等休止（R2 年 4 月 17 日～5 月末）
（6 月から新型コロナウイルス感染予防の徹底に努めながらの再開となった。）

【旧あさごふれ愛の郷かがやき　就労継続支援 B 型事業】

●利用状況　（定員 15 名）
実利用者数　15 名　（R2 年 12 月 31 日現在）
新規ご利用者　0 名
退所者　0 名

●月別延べ利用人数　（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
人数	308	246	311	303	275	287	317	266	265	2,578

●取り組み
ほっとコミュニケーション事業で、75 歳以上の独居の方へのお誕生日プレゼントとしてクッキーをお届けした。ふるさと納税の返礼品や市役所バザーも継続して行い、新たな方からの注文もあり、たくさんの方々にクッキーを購入いただくことが出来た。また施設外就労については、新しく作業を担当する利用者ができ、個々の利用者の出来ることを増やし、その力を伸ばしながら、自立に向けた支援を心がけたい。

【旧あさごふれ愛の郷のぞみ】

●利用状況
新型コロナウイルス感染症拡大のため 1 回のみの実施となった。
実利用者数　3 名　（R2 年 7 月 10～11 日）

●今後の取り組みについて
障がい者（児）複合型多機能施設で行う短期入所事業へ移行するため、のぞみで実施する宿泊訓練は今年度で終了とした。

【あさごふれ愛の郷あおぞら　就労継続支援 B 型事業】

●利用状況　（定員 45 名）
実利用者数　39 名　（R3 年 3 月 31 日現在）
新規ご利用者　3 名
退所者　1 名　（他事業所へ　3 月）

●月別延べ利用人数　　（単位：人）

月	R3. 1	2	3	計
人数	411	547	683	1,641

●取り組み

旧あさひ、旧かがやきの利用者がひとつの事業所になり、一緒に作業に取り組んだりこれまで経験したことのない作業に取り組む機会を得ることで活気がでてきた。クッキー製造も朝来老人福祉保健センター調理室に調理場所を移し作業が再開した。

また、公共交通機関での自力通勤を推奨し、全但バスやあこバスを使って自力通所される方が増えた。

作業については、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響し、作業の受注が減少している。

●今後の取り組み

・定員の確保と安定的な利用を継続させていくために、利用者の強みが十分に発揮できるよう働く場と作業を確保していく。

・施設外作業に多くの利用者が挑戦できるようにしていく。

・施設の一部を利用したカフェ等の開設で働く場を作っていく。

●全体として

・ラインワークスの活用

職員間の情報共有のツールとして「ラインワークス」を取り入れた。

このことで瞬時の情報共有が可能となっている。

《就労支援収入》

月	授産収入	委託収入	合計
R2. 4	80,350 円	177,227 円	257,577 円
5	54,550 円	96,330 円	150,880 円
6	52,375 円	108,763 円	161,138 円
7	79,200 円	161,540 円	240,740 円
8	96,550 円	140,428 円	236,978 円
9	203,220 円	171,913 円	375,133 円
10	105,200 円	183,577 円	288,777 円
11	77,750 円	204,038 円	281,788 円
12	326,220 円	251,362 円	578,118 円
R3. 1	57,850 円	230,470 円	288,320 円
2	265,450 円	251,362 円	516,812 円
3	79,400 円	246,356 円	325,756 円
合計	1,478,115 円	2,223,902 円	3,702,017 円

《就労支援収入》

月	工賃計	人数	平均工賃
R2. 4	372,630 円	34 人	10,960 円
5	296,340 円	32 人	9,261 円
6	394,419 円	33 人	11,952 円
7	402,570 円	34 人	11,840 円
8	377,850 円	35 人	10,796 円
9	401,457 円	36 人	11,152 円
10	454,100 円	36 人	12,614 円
11	376,290 円	36 人	10,453 円
12	379,840 円	34 人	11,172 円
R3. 1	317,030 円	36 人	8,806 円
2	418,480 円	35 人	11,957 円
3	516,740 円	37 人	13,966 円
合計	4,707,746 円	418 人	11,262 円

※令和元年度平均工賃　10,486 円

【あさごふれ愛の郷あおぞら　短期入所支援】（令和 3 年 2 月開所）　新規事業

●利用状況　（定員 5 名）

実利用者数　男性　2 名　　女性　1 名

契約者数　　11 名（R3 年 3 月 31 日現在）

●月別延べ利利用人数　（単位：人）

月	R3. 2	3	計
人数	1	5	6

●主な取り組み状況

家庭の都合や将来を見据え、体験利用として希望する声が聞かれている。

この事業の利用にあたっては、普段の様子を把握し安全に利用いただくため、日中サービスを利用いただく必要があり、生活介護事業の新規利用につながったケースもあった。

●今後の課題と展望

・今後、利用希望は増えていくと思われる。

・休日利用や連泊が増えていくことが考えられ、日中サービスと短期入所の職員を効率よく勤務できるように努めなければならない。

・安心して利用いただける事業所、また利用者のニーズに応えられる事業所として、職員の資質向上と体制の強化や緊急時の対応等の充実が課題となる。

【あさごふれ愛の郷あおぞら　共同生活援助】（令和３年２月開所）　新規事業

●目的　　共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行います。

●定員　　５名

●利用状況　実利用者数　３名（体験）
　　男性１名　女性２名



●月別利用者延べ人数　（単位：人）

月	R3.2	3	合計
人数	6	31	37

●取り組み

夜間も世話人を配置し、本入居までの体験利用３名を受け入れた。この間、生活上、身に付けなければいけない清掃、片付け、整理整頓、洗濯、買い物、簡単な調理等を行いました。今後も共同で生活する上で必要なものについて、世話人（サポーター）の支援を受けながら進めたい。（食事については、市内の飲食業者や利用者が各自で買い物等購入されたもので対応）

●課題

相談支援事業所等関係機関と連携を図りながら定員５名の入居を進めていく。入居者同士が共同で生活していくためのルールづくりや余暇の過ごし方が課題。

【あさごふれ愛の郷あおぞら　就労移行支援】（令和３年１月開所）　新規事業

●目的　　一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います（65歳未満の者）。

●定員　　６名

●利用状況　０名（３月末において４名の利用相談があったが、利用には至らず）
　　４月より１名が就労継続支援Ｂ型事業と並行利用の予定。

●取り組み（予定）
　　就労訓練（施設内・外就労）、基礎体力訓練（ウォーキング等）、ビジネスマナー・一般教養の学習、パソコン知識の習得、個別面談

●課題　　令和３年度、相談支援事業所等関係機関と連携を図り利用人員の定員利用を目指します。また利用者がそれぞれの目標が達成できるよう就労訓練、ビジネスマナーの習得など、個々の目標を定め少しずつ達成できるような支援方法の確立。

【あさごふれ愛の郷　ＹＯＵ・愛センター】

1　利用状況

①　開所日数と月別延べ利用人数（前年度対比）

2	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
年	日数	26	26	26	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308
度	人数	223	203	272	260	259	287	289	264	277	258	260	285	3,137
元	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
年	日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	25	26	309
度	人数	263	247	235	271	228	242	252	252	251	227	250	250	2,968

②　利用者学校別状況

山口小	中川小	竹田小	枚田小	東河小	糸井小	梁瀬小
1名	1名	1名	1名	3名	3名	3名

和特小学部	和特中学部	和特高等部	合　計
6名	8名	4名	31名

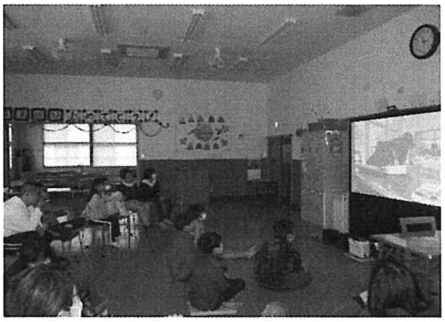
③　曜日別平均利用人数

月	火	水	木	金	土
10名	11名	11名	8名	13名	8名

2　令和2年度の取り組みと今後の課題

新型コロナウイルス感染症拡大のため各学校が休校となり年度の前半は利用減となったが、感染対策を行いながら月2回の行事や音楽療法を実施し、4名の新規利用者も迎え、結果昨年度より利用増となった。イベントのある土曜日は大勢の方が利用され好評であったが、祝祭日やイベントのない土曜日は大幅な利用減となり、令和3年度は新規事業所の参入もあることなどから、利用拡大に向け対策が必要である。





【訪問介護事業】　　（いきいき介護センター）

自宅での日常生活の援助

ホームヘルパーが介護の必要な高齢者や障害者の自宅を訪問し、身体介護サービスや生活援助サービスを提供した。

利用者の状況に応じたサービスを実施した。

■　主なサービス内容

《身体介護の例》	・食事介助・排泄介助・入浴介助・移動介助
《生活援助の例》	・調理・洗濯・買い物・掃除

■　体制及び資格取得状況

	人数	介護福祉士	2級
サービス提供責任者	3	3	—
訪問介護員	14	12	2

ヘルパー人数　計17名　（参考：昨年17名）

■　講師派遣及び研修・実習の受け入れの状況

	受け入れ先	日時	内容	人数
実習	兵庫県立日高高等学校	7月20日～7月21日	訪問介護実習	2

■介護度別利用者数　（R2/4/1～R3/3/31）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
要支援 1	7	7	7	6	6	7	7	7	7	6	6	6	79
要支援 2	12	11	11	13	13	13	13	13	12	13	11	10	145
要介護 1	18	20	19	20	20	20	22	22	22	24	25	25	257
要介護 2	13	12	12	14	14	15	13	13	12	11	11	11	151
要介護 3	6	10	7	7	6	6	4	8	10	10	13	15	102
要介護 4	9	9	8	10	12	8	10	8	9	7	9	11	110
要介護 5	12	11	11	10	12	13	13	11	12	12	10	9	136
合計	77	80	75	80	83	82	82	82	84	83	85	87	980

■校区別支援対象人数　R3.3.31　現在

校区	生野	奥銀谷	山口	中川	糸井	大蔵	和田山	東河	竹田	梁瀬	栗鹿	与布土
要介護	8	1	10	3	6	14	7	1	6	12	2	3
要支援	2	0	1	2	1	4	0	1	1	2	0	2
自立支援	3	1	3	3	3	2	4	2	5	6	3	1

■　取り組み

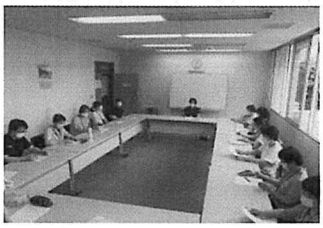
緊急事態宣言を受け感染リスクを避ける為、事務所に寄らず直行直帰対応に切り替えた。その際、昨年度取り入れたグループ LINE を活用する事で支援に対する連携と情報共有ができ、帰省できなかったご家族へも報告することができた。

今年度はコロナ禍の為、ミーティングを月１度に変更し換気を行いながら、事例検討や研修で習得した事を皆で実践し、知識・技術のスキルアップを図った。感染予防対策として年２回研修に参加し、毎月のミーティングで感染予防対策の確認を実施した。コロナ対策として、公用車内と職員個々にフェイスシールド・防護服等のグッズを準備した。

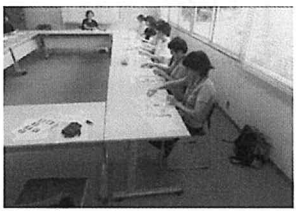
【養育支援事業】

事業の概要とし、子どもへの安全な養育環境の確保及び養育者への指導と家庭の抱える養育上の問題の解決を図り、児童福祉の推進と児童虐待の未然防止を目的として ２名の方の環境整備、調理、沐浴等の支援を実施した。

《換気を行いながらのミーティング》



《マスクの取り扱い研修》



【障害者総合支援法事業】　　（いきいき介護センター）

障害のある方が出来るだけ自立した生活がおくれるように支援し、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現していく仕組みである。この支援法の中で、以下のサービスに対応した。

サービス名	利用者数	サービス内容
居宅介護 (ホームヘルプ)	30	自宅で入浴や排泄、食事の介護など自宅での生活全般にわたる介護サービスの提供
重度訪問介護	—	重度の肢体不自由があり、常に介護が必要で自宅での介護から外出時の移動支援までを総合的に行う。
行動援護	—	知的障害、又は精神障害により行動が困難で常に介護の必要な人に、外出時の移動の支援や行動の際に生じる危険回避の為の援護等を行う。

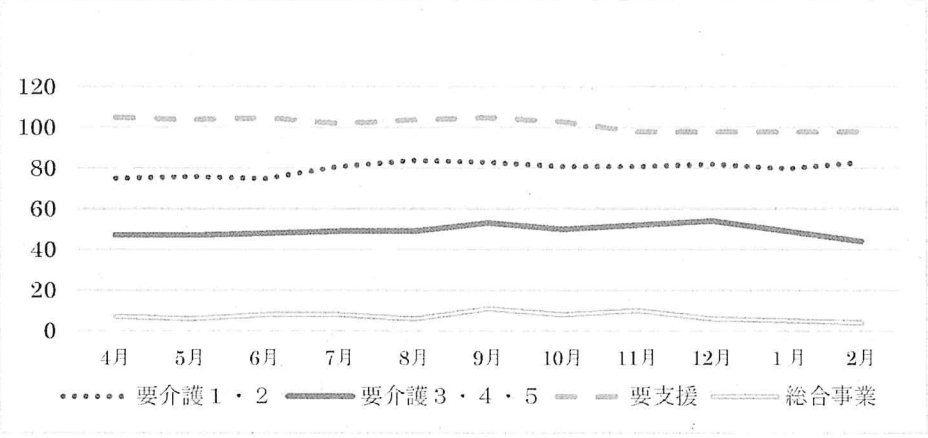
（市が行う地域生活支援事業）

サービス名	利用者数	サービス内容
移動支援事業	12	自立支援給付の対象とならないケースでの外出時の円滑な移動を支援し、自立生活や社会参加を促す。

【居宅介護支援事業】

◆活動状況

居宅介護支援事業（ケアマネジメント）は、利用者の自立支援や生活の質の向上を目指し、必要な介護サービスを受け住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるように支援する事業。ケアマネジャーが担当利用者の相談に応じ、サービス事業所との連絡調整や入退院時の医療機関との連携を行う。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として訪問回数を減らし、サービス担当者会議等の開催も文書で行った。また、退院前の話し合いや病院への面会もできず、利用者に寄り添ったケアマネジメントが難しい一年であったが、感染症への意識が高まり、感染症と共存しながらの支援を工夫することができた。朝来への拠点移転から、朝来地区、生野地区の利用者も増加傾向。給付件数は年間を通してほぼ一定であるが、要支援、要介護１、２の軽度者の占める割合が高い。



◆研修



更新研修を始め、市内や但馬地域で開催される研修等に数多く参加する予定であったが、コロナ禍で更新研修は延期、数々の研修も中止となった。しかし徐々にＷｅｂ研修が開催されるようになり、移動時間の短縮、オンライン機器の習得等のメリットも生まれ、新しい形での研修体系ができつつある。

◆今後の課題

感染症や、災害が発生した場合でもご利用者に必要なサービスが提供できる体制を考えておくことが大切である。その為には日ごろからの感染症対策と地域と連携した対応の強化、またＩＣＴ（情報通信技術）の習得などが課題としてあげられる。また、支援者のいない方がますます増えてきている中で、市をはじめとする関連機関や社協内の他部署と連携していくために、様々な制度の知識を深めていくことが必要である。

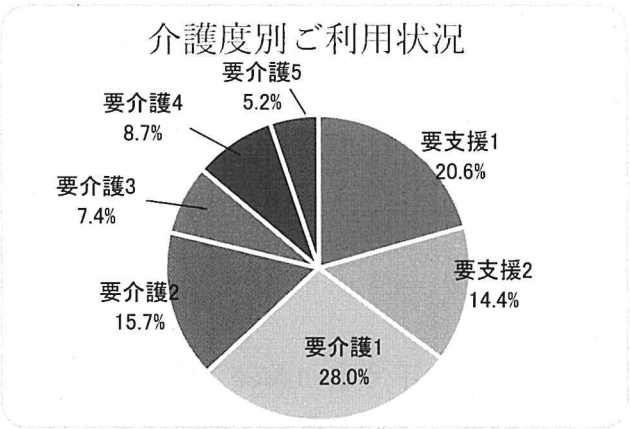
【デイサービスセンター　かしのき園】朝来市和田山町宮田 187-4　TEL 672-0405

☆定員　20 名

☆令和２年度は、コロナ禍の中、ホールでは飛沫防止ボードの設置・換気・マスク着用・３密を避け過ごしていただいた。天気の良い日にはウッドデッキに出て、野菜や花の栽培を楽しむことができた。送迎においては、マスク着用・換気・乗車前の検温・手指消毒に加え、オゾン発生装置を設置し安全・衛生に努めた。

★介護度別利用状況としては、要支援 1→10 名　要支援 2→7 名　要介護 1→13.6 名　要介護 2→7.6 名　要介護 3→3.6 名　要介護 4→4.2 名　要介護 5→2.5 名となる。





【宅老所ふらっと】　朝来市立脇 4-1 TEL 677-1114

☆定員９名

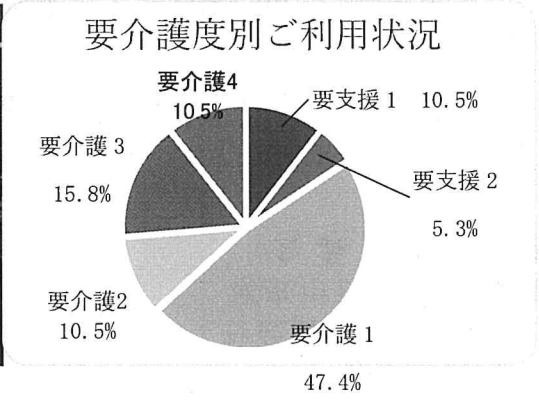
☆ホールにテーブル設置。

新型コロナウイルス感染予防対策としてテーブルを１台購入

感染予防策の一つでもあ３密を避けるため、広い空間を有効活用し 3 台のテーブル・３台のソファで過ごして頂いている。

☆介護度別利用状況は、要介護１の利用者が全体の半数以上と多く、次に要介護３と続く。要介護 2、4 はわずかではあるが利用いただいている。

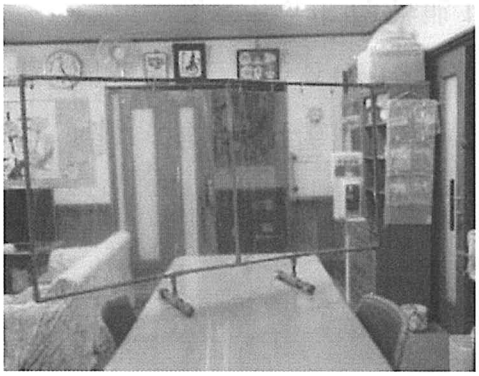


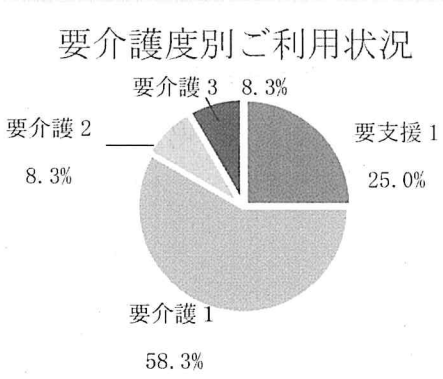


【小規模多機能施設　ひなたぼっこ】朝来市生野町口銀谷 418-5　☎079-679-3006

☆定員 14 名

☆令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症対策に全力を注いだ 1 年であった。感染予防のためソーシャルディスタンスが取れるよう、ソファーのレイアウトを変更。テーブル上に飛沫防止ボードを設置し、更に飛沫防止ガードを制作した。十字に区切ることで 1 つのテーブルに 4 名座れるようになった。マスクの着用が必須になり、保管のためマスク専用にボードも設置。自動消毒器・石鹸器の導入やトイレの水栓も自動化することが出来た。





【小規模多機能施設　宅老所えんや】朝来市立野 164-12　☎079-678-1152

☆定員 24 名

☆重介護度の利用者は入院、入所される傾向強く、比較的軽介護度の方が多い。

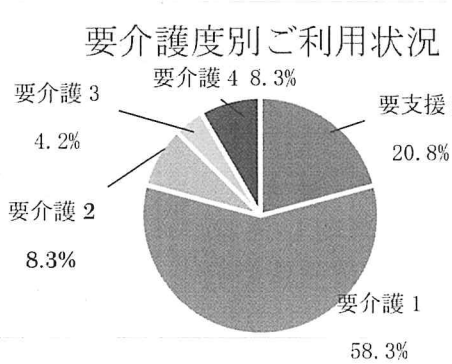
☆玄関を全面スロープ張りにし、段差を解消したことで、利用者がより安全に出入りできるようになった。

☆新型コロナウイルス感染症予防として、３密を回避するため通い利用定員を 15 名から 12 名に変更したことで、利用者がゆったり過ごせるようになった。

☆コロナ禍の中、鵤森先生の習字教室やさくらんぼの会など定期的にボランティアさんに来ていただくことが出来た。また、年度末には山口小学校 3 年生の皆さんから例年の慰問に代わり、手作りの絵本やカレンダー、温かい手紙などを送っていただき、利用者もお礼の手紙を書いて下さり、心の交流が持てた。



祝百寿!!



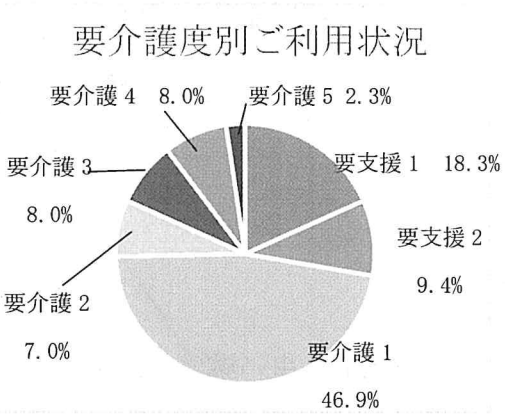
【小規模多機能施設　ひばり】朝来市山東町溝黒 123-2　☎079-676-5511

☆定員 24 名

☆新型コロナウイルス感染症予防のため、4～5 月は一日定員を 12 名から 9 名に変更し、３密回避を試みる。その後はテーブルの配置、座る位置を変更し、12 名の定員でもゆったりと過ごせるように工夫した。

☆コロナ禍の中、おしゃべりや歌う事、外出行事などを控え、手指トレーニングや下肢筋力低下予防等を目的に、個々で楽しめるレクを取り入れている。又、来所して頂いた際、出席カードにひばりシールを貼って頂き月末には皆勤賞の表彰状をお渡しし個々の頑張りの励みにして頂いている。





【小規模多機能施設　おくらべ】朝来市和田山町宮田 187-6　☎079-673-3060

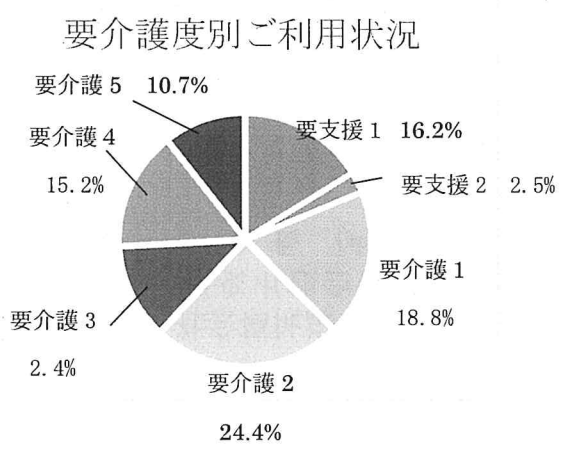
☆定員 24 名

☆コロナ禍にあって、施設内が密にならないように登録定員を 25 名から 24 名に、通所の 1 日の定員を 15 名から 12 名に変更した。

☆今年度は新型コロナコロナ感染症予防のため、おしゃべりや歌うことを控え、レクリエーションとしてマスク作りに挑戦したり、季節の草花でフラワーアレジメントに取組んだ。

☆介護度別利用状況としては、年度の前半は重度の方が多かったが、下記のグラフのように 1 年平均すると、要介護 1、2 の利用者で半数近くを占めています。





【高齢者６施設一体改革】

前年度に引続き、高齢者６施設が統一に取組み、月１回のペースで「高齢者施設一体改革会議」を開催した。

今年度はコロナウイルス感染症拡大防止の目的で、おくらべ登録定員・１日利用人数、えんや１日利用人数の変更し三密を回避した。飛沫防止ガード、マスク等を活用し、１時間毎の換気、手洗い、消毒の徹底、接触を避ける為に非接触型体温計や自動消毒噴霧器の導入等、コロナ禍の中での感染防止に取り組んでいる。

